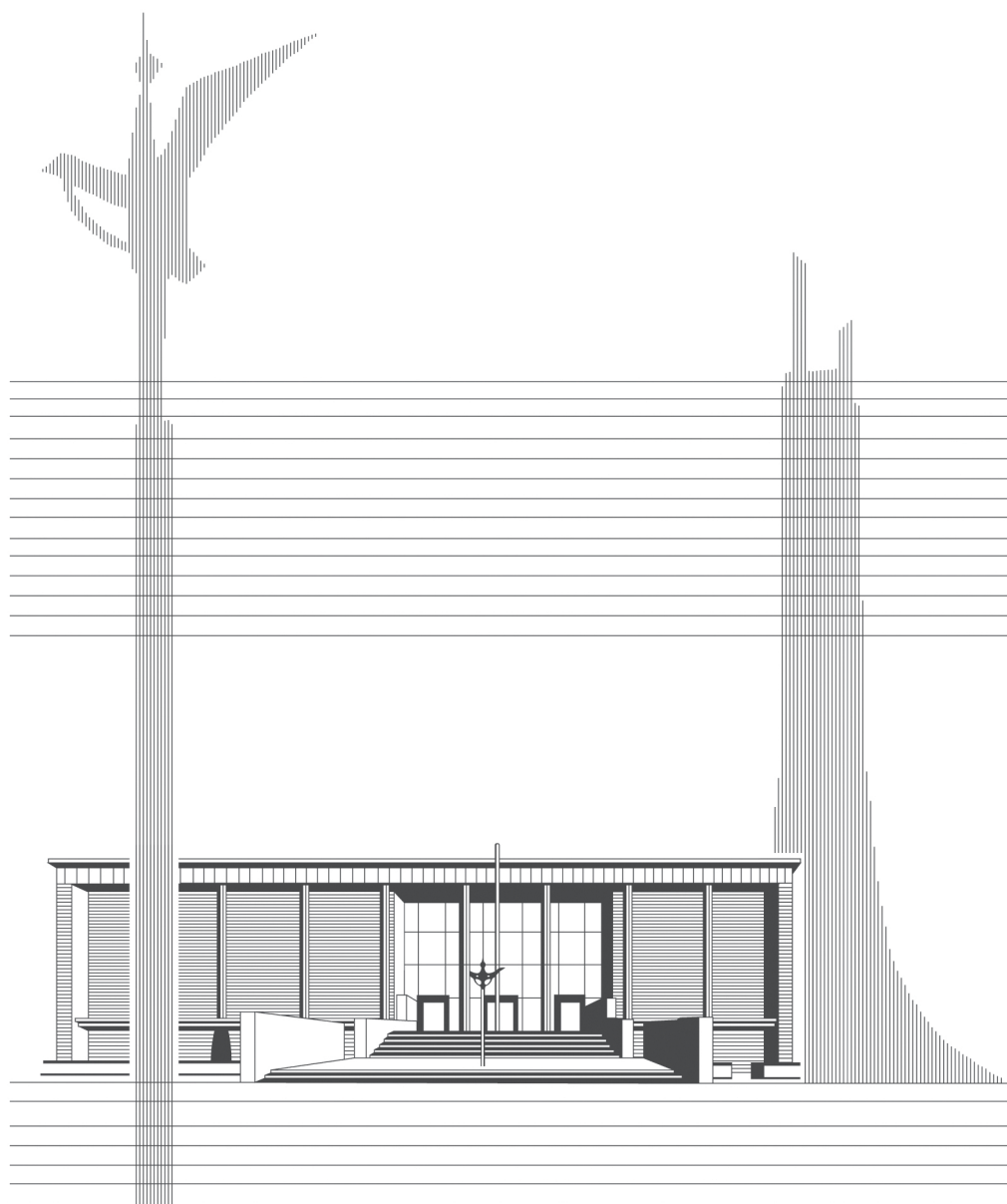


2014 要覧

Museum Survey and Guide



北海道開拓記念館

Historical Museum of Hokkaido

北海道開拓記念館

2014 要覧

目次

ごあいさつ	Director's foreword	1
北海道開拓記念館の役割	Mission of Historical Museum of Hokkaido	1
沿革	History	2
歴代館長	Former Directors-General	4
組織	Organization	4
現員	Member of Staff	4
職員名簿	Staff	5
利用者数	Number of Vistors	5
施設	Facilities	6
調査研究	Research Activities	12
研究交流	Research Exchange	15
資料の収集と保存	Collection, Preservation of Materials	16
展示	Exhibition Programs	18
教育普及	Education and Public Programs	20
連携・ネットワーク	Outreach Activities	22
広報	Public Relations	24
出版活動	Publication Activities	26
館長・学芸職員紹介	Introduction of Director-General, Curator and Assistant Curator	27
学芸第一課	Group 1	28
学芸第二課	Group 2	31
学芸第三課	Group 3	33
北海道博物館の設置に向けて	Renewal to the Hokkaido Museum	35
条例・規則など	Ordinance, Rule of Historical Museum of Hokkaido	36
利用案内	Information	44

ごあいさつ Director's foreword

2013年4月1日付で、堀達也前館長のあとを受けて、北海道開拓記念館館長に就任いたしました。当記念館は北海道百年記念事業の一つとして1971年に開館した総合的な歴史博物館ですが、今年11月に一時休館して老朽化した施設の改修工事を行なうとともに、展示の改修も行ない、2015年春に「道立北海道博物館」としてリニューアル・オープンする予定になっています。

すでに策定されている「北海道博物館基本計画」では、①基本的機能の充実した博物館(わかりやすく・おもしろく・ためになる博物館、文化創造と地域活性化の拠点、道民と連携・協働する博物館)、②北海道の総合的な博物館(自然・環境を含む未来に向けた人間史の博物館、アイヌ文化を保存・継承し未来に活かす博物館)、③道内博物館の中核施設(地域の博物館との連携・協働、人・モノ・情報のネットワークの充実強化)などの基本方針が示されています。

私は1975年～2006年まで国立民族学博物館(大阪府吹田市)に勤務して、梅棹忠夫・初代館長の下で新しい博物館の創設にかかわるとともに、2004年には文化資源研究センター長に就任して民博の博物館部門の改革を推進しました。さらに2006年～2013年までは北海道大学観光学高等研究センター長を務めましたので、それらの経験を活かして、北海道開拓記念館のより良いかたちでのリニューアルを実現させていく所存であります。今後とも、何卒宜しくご支援を賜われますようお願いいたします。



北海道開拓記念館長
石森秀三

Director-General
Historical Museum of Hokkaido
ISHIMORI Shuzo

北海道開拓記念館の役割 Mission of Historical Museum of Hokkaido

北海道開拓記念館は、北海道百年記念事業の一つとして昭和46年(1971)に開館した総合的な歴史博物館です。当館では開館以来、北海道開拓のなかでうみだされた文化財を中心にさまざまな歴史資料を収集保存、調査研究し、それらを体系的に整えるとともに、常設展示を核とする展示活動や教育普及の諸事業を通して、北海道の歴史と先人の遺産を後世に伝える役割を果たしてきました。

また高齢化社会の到来や情報化の進展、生涯学習気運の高揚、学校教育現場での週五日制および総合的な学習の導入など、博物館を取りまく社会情勢が近年大きく変化するなかで、博物館施設には社会教育のみならず学校教育をも含む生涯学習の場として、大きな期待が寄せられています。

このような情勢のもと開拓記念館は、これまで40年間に蓄えた歴史的資料や調査研究成果をもとに、館外において積極的に事業を展開します。また、地域や住民の意向を取り入れた活動を行なうことは重要な役割であり、今後とも継続します。さらに、地域の博物館施設との連携のもとに、北海道の歴史や博物館行催事に関する情報を積極的に発信するほか、体験学習の機能を充実させ、誰もが楽しく歴史にふれあい、利用できる「学習の場」の提供につとめるなど、収蔵資料の積極的な活用、誰もが利用しやすい施設の運営、生涯学習や道内博物館のセンター的機能の充実などをはかります。

一方、博物館の重要な役割である調査研究では、収蔵資料および北海道の歴史に関する研究を精力的に推進するとともに、国際化の時代に即応し、カナダ・アルバータ州、ロシア・サハリン州及び中国・黒竜江省の博物館等との間で「北方文化共同研究事業」を推進し、これらにより得られた成果を、講演会、展示会などの機会を通して道民をはじめとする利用者に広く還元していきます。



沿革 History

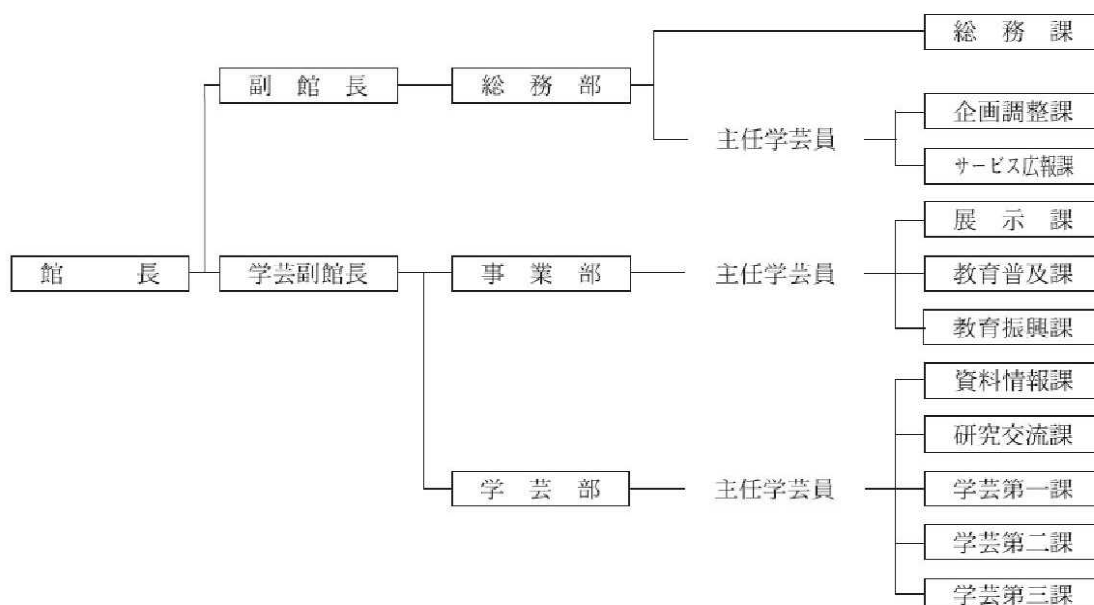
1964	昭和39年		開道百年記念事業協議会において開拓記念館の設置をきめる
1966	昭和41年	3月	「北海道百年記念事業実施方針」の中で開拓記念館建設計画が明らかとなる
1967	昭和42年	9月	「開拓記念館構想試案」まとまる 北海道開拓記念館開設協議会設置
1968	昭和43年	5月	「開拓記念館資料収集基本方針」決定
		11月	開拓記念館建設工事起工式挙行
		12月	開設協議会展示計画専門部会設置
1969	昭和44年	9月	「北海道開拓記念館常設展示計画原案」まとまる
		11月	「北海道開拓記念館業務計画案」まとまる
		12月	開設協議会企画専門部会設置
1970	昭和45年	4月	北海道開拓記念館開設準備事務所開設
		9月	記念館第一期建築工事竣工
1971	昭和46年	4月	北海道開拓記念館発足(条例・規則施行)。事業部に企画・普及・展示の3課、学芸部に資料管理・資料収集・資料調査の3課を置く。開館記念式典挙行(14日)。開館(15日)
		7月	第10回北海道博物館大会を当館で開催
		8月	野幌森林公園計画に野外博物館(開拓の村)設置を告示(4日)
1972	昭和47年	9月	第20回全国博物館大会を当館ほかで開催
		12月	「開拓の村建設基本構想案」まとまる
1973	昭和48年	5月	開拓の村建設協議会設置
1974	昭和49年	1月	「開拓の村基本計画書」まとまる
1977	昭和52年		開拓の村サブアプローチ道路造成
		6月	開拓の村建設工事起工式挙行(1日)
		9月	文部省科学研究費補助金交付対象機関に指定される
1978	昭和53年		開拓の村に旧樋口家ほか2棟復元、管理用道路・市街地群道路・農村群道路造成。
		6月	道立試験研究機関連絡協議会に加盟
		8月	カナダ海外文化交流展「PEOPLE OF THE CEDAR」開催(～10月)
		10月	開拓の村建築物収集協力員委嘱
1979	昭和54年		開拓の村に旧開拓使工務局庁舎ほか2棟復元、連絡歩道造成
		4月	「開拓の村展示基本構想」まとまる
		9月	「開拓の村基本構想」決定
1980	昭和55年		開拓の村に旧信濃神社ほか2棟復元
		4月	常設展示第7テーマ「新しい北海道」を改訂、オープン(1日)
		5月	館組織改正、事業部に企画・普及・展示の3課、学芸部に資料管理・調査収集の2課、開拓の村整備室に計画・施設の2課を置く(16日)
		8月	北海道開拓記念館友の会発足(26日)
1981	昭和56年		開拓の村に旧松橋家ほか1棟復元。馬車鉄道車輛、軌道、車庫完成。連絡道橋梁工事竣工、「開拓大橋」と命名
		3月	「北海道開拓記念館10年のあゆみ」刊行
1982	昭和57年		開拓の村に旧北海中学校ほか2棟復元、管理棟建築、旧南一条交番ほか8棟展示施工
1983	昭和58年		開拓の村に旧武岡商店ほか1棟復元、旧近藤染舗ほか2棟解体収集、旧開拓使工務局庁舎ほか3棟展示施工
		4月	開拓の村一般公開
1984	昭和59年		開拓の村に旧恵迪寮ほか3棟復元、旧龍雲寺ほか1棟解体収集、旧北海中学校展示施工
		1月	財団法人日本生命財団の出版助成を得て『北海道開拓記念館総合案内』を刊行
		7月	海外(カナダ)交流展「北海道・古代と現代」協力(～8月)
1985	昭和60年		開拓の村、旧農商務省滝川種羊場機械庫再現、旧武井酒造店解体収集、旧武岡商店ほか8棟展示施工
1986	昭和61年		開拓の村に旧藤原車輜製作所ほか1棟再現、旧山本理髪店ほか3棟解体収集、旧島歌郵便局ほか2棟展示施工
1987	昭和62年		開拓の村に旧武井商店酒造部ほか1棟再現、旧渡辺商店ほか1棟解体収集、旧山本理髪店ほか3棟展示施工
		4月	NHK共催展「地球大紀行展」開催
1988	昭和63年		開拓の村に旧菊田家農家住宅ほか2棟復元、旧藤原車輜製作所ほか1棟展示施工
1989	平成元年		常設展示改訂基本設計実施。開拓の村に旧渡辺商店ほか1棟復元
		8月	展示会「ロシアの憂愁アントン・チェーホフ展」開催
1990	平成2年		開拓の村に旧広瀬写真館ほか2棟再現、旧渡辺商店ほか4棟展示施工。常設展示改訂実施設計実施
		6月	「北の歴史・文化交流研究事業」(第1次)学術交流覚書調印(ハバロフスク州立郷土博物館・サハリン州立郷土博物館・ロシア科学アカデミー極東支部極東諸民族歴史・考古・民族学研究所)
		10月	「北の歴史・文化交流研究事業」(第1次)学術交流覚書調印(黒竜江省文物管理委員会)
		12月	社団法人北海道開拓記念館・開拓の村文化振興会設立総会開催(22日)
1991	平成3年		開拓の村当初計画40棟の整備事業終了。
		7月	博物館移動展「北方民族資料展」を江差町と倶知安町で開催
		11月	常設展示全面改訂工事施工のため、11月4日～翌年3月31日臨時休館
1992	平成4年	4月	館組織改正、開拓の村整備室を廃し、新しく企画部を設置。企画部に業務・企画調整の2課、事業部に普及・展示・開拓の村の3課、学芸部に資料管理・調査収集・文化交流・情報サービスの4課を置く(3部9課)。新常設展示オープン式典(15日)。なお、翌16日から一般公開(1日から14日まで再オープン準備のため臨時休館)。
		8月	博物館移動展「子どもの四季」を鷹栖町と留萌市で開催
1993	平成5年		開拓の村に旧開拓使爾志通洋造家(白官舎)復元
		6月	共催展「イヌイト・アート展」開催(～7月)
		7月	博物館移動展「ヒグマ」を浦河町と池田町で開催
		10月	第41回全国博物館大会を当館ほかで開催

1994	平成6年		開拓の村の旧開拓使爾志通洋造家(白官舎)展示施工
		6月	博物館移動展「北海道化石紀行ークビナガリュウからマンモスゾウまでー」を釧路市と根室市で開催
		10月	北海道ウタリ協会との共催展「ピリカ・ノカーアイヌの文様からみた民族の心ー」を開催
1995	平成7年	5月	アルバータ州姉妹提携15周年記念特別展「アイヌ芸術と風俗」をカナダ・アルバータ州立博物館で開催(～8月)
		7月	博物館移動展「山丹交易」を網走市と稚内市で開催
		8月	中・地階給排水管工事(～3月)
		9月	アルバータ州姉妹提携15周年記念特別展「アイヌ芸術と風俗」をカナダ・グレンボー博物館で開催(～11月)
		10月	「北の文化交流史研究事業」(第2次)学術交流協定調印(中国、ロシア)
1996	平成8年	4月	北海道開拓記念館基本問題検討委員会発足
		6月	博物館移動展「北海道のやきもの」を室蘭市と函館市で開催(～7月)
		8月	「全国高等学校総合文化祭ー写真部門ー」当館で開催
1997	平成9年	4月	日仏100年記念「アイヌ芸術展」フランス・ブザンソン市・北海道新聞社と共催
		6月	博物館移動展「自然の恵みをもとめた古代人ー貝塚からみた北の文化ー」を千歳市と滝川市で開催
		7月	共催展「アイヌ工芸展ーサハリンアイヌの生活文化ー」を財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構と共同で開催
1998	平成10年	3月	開拓の村ビジターセンター(旧開拓使本庁舎)が竣工
		7月	移動博物館「刻まれた大地ー地図に見る幕末・明治の石狩川流域ー」を深川市、富良野市で開催
		11月	耐震改修工事等のため休館(～3月)
1999	平成11年	4月	館組織改正、企画部を総務部、業務課を総務課に改める
		7月	移動博物館「アイヌの衣文化」を栗山町と余市町で開催
		12月	特別展示室電気改修工事を行なう
2000	平成12年	7月	移動博物館「北の職人」を名寄市、紋別市で開催
			ホームページ開設
		10月	「北方文化共同研究事業」(第3次)ロシア・サハリン州、カナダ・アルバータ州、中国・黒竜江省と調印(～12月)
2001	平成13年	4月	館組織改正、事業部に教育振興課、普及事業課、開拓の村課、展示課、文化交流課の5課、学芸部に資料課、情報サービス課、学芸第一課、学芸第二課、学芸第三課の5課を置く(3部12課)
		6月	北海道庁赤れんが庁舎内に「北海道の歴史ギャラリーー北海道開拓記念館」オープン
		7月	移動博物館「ぼくらのまちをタイムトラベラー100年前といま、そして100年後ー」を利尻町、奥尻町、登別市で開催(～8月)
2002	平成14年	4月	ホームページリニューアル
		6月	移動博物館「化石が語る1億年ヒストリーークビナガリュウから人類までー」を小平町、中川町で開催(～7月)
		9月	移動博物館「北海道のうるし文化」を上ノ国町、南茅部町で開催
2003	平成15年	6月	移動博物館「刷って、伝えるー印刷再発見」を清水町、日高町で開催(～7月)
	2004	平成16年	ミュージアムメイト制度発足(～2007年1月)
		7月	移動博物館「北と南の動物たちー北海道周辺の生物分布とその境界ー」を羅臼町で開催
2005	平成17年		「北方文化共同研究事業」(第4次)ロシア・サハリン州と調印
		9月	「北方文化共同研究事業」(第4次)カナダ・アルバータ州、中国・黒竜江省と調印
		11月	アスベスト除去工事のため臨時休館(～12月)
2006	平成18年	4月	館組織改正、総務部に総務課、企画調整課、サービス広報課の3課、事業部に展示課、教育普及課、教育振興課の3課、学芸部に資料情報課、研究交流課、学芸第一課、学芸第二課、学芸第三課の5課を置く(3部11課)
		7月	移動博物館「暮らしのなかのストーブ」を釧路市で開催(～8月)
		4月	「第二期ミュージアムメイト」開始(～2009年3月)
2007	平成19年		移動博物館「カナディアン・ロッキーと大平原のくに」を網走市で開催(～6月)
		5月	北海道文化審議会が「北海道における博物館のあり方と開拓記念館の役割検討特別委員会」を設置
		5月	館内に「総合検討委員会」設置
2008	平成20年	6月	移動博物館「歴史再発見ー日高の風」を様似町で開催(～7月)
		4月	「第三期ミュージアムメイト」開始(～2011年3月)
		7月	移動博物館「謎の顔面刻画ーフゴッペ洞窟ー」を枝幸町で開催(～9月)
2009	平成21年	8月	北海道文化審議会が「北海道における博物館のあり方と開拓記念館の役割について」答申
		9月	館内に「開拓記念館リニューアル検討委員会」設置
		11月	環境生活部生活局道民活動文化振興課に「北海道ミュージアム(仮称)基本計画検討委員会」設置
2010	平成22年	7月	北海道博物館協会50周年記念大会を当館で開催
		9月	「北海道博物館基本計画」策定。館内に「北海道博物館設置検討委員会」設置
		4月	「第四期ミュージアムメイト」開始(～2013年3月)
2011	平成23年	7月	「北海道博物館設置プラン検討委員会」設置
		3月	北海道開拓記念館40周年記念事業「北の土偶」開催(～5月)
			北海道博物館設置プラン検討委員会より「北海道博物館リニューアル検討報告書」答申
2012	平成24年		施設改修工事基本設計実施
		3月	「北海道博物館実施計画」策定
			施設改修工事実施設計実施。常設展示改訂基本設計実施
2013	平成25年	4月	「第五期ミュージアムメイト」開始(～2015年3月)
		11月	「北海道開拓記念館」閉館
		3月	常設展示改訂実施設計実施

歴代館長 Former Directors-General

初代	犬飼哲夫	1971年4月1日	～	1979年11月1日
第2代	高倉新一郎	1981年1月10日	～	1986年3月31日
第3代	渡邊左武郎	1986年4月1日	～	1994年3月31日
第4代	城戸崎彰	1994年4月1日	～	1997年6月30日
第5代	吉田和夫	1997年7月1日	～	2002年3月31日
第6代	山田家正	2002年6月1日	～	2006年3月31日
第7代	河村耕作	2006年4月1日	～	2007年4月30日
第8代	丹保憲仁	2007年5月1日	～	2010年3月31日
第9代	堀達也	2010年4月1日	～	2013年3月31日
第10代	石森秀三	2013年4月1日	～	

組 織 Organization



現 員 Member of Staff (2014年4月1日現在)

所属	区分	常 勤		非 常 勤		合 計
		行政職	研究職	特別職(嘱託)	一般職	
館 長				1		1
副 館 長		1				1
学 芸 副 館 長			1			1
部 長		1	1(1)			2(1)
主 任 学 芸 員			3			3
総 務 課		7(1)				7(1)
企 画 調 整 課			2			2
サービス広報課		1	2			3
展 示 課			4			4
教 育 普 及 課			3		14	17
教 育 振 興 課			(1)			(1)
資 料 情 報 課			3			3
研 究 交 流 課			2			2
学 芸 第 一 課			(8)			(8)
学 芸 第 二 課			(6)			(6)
学 芸 第 三 課			(5)			(5)
合 計		10(1)	21(21)	1	14	46(22)

* ()は兼務数

職員名簿 Staff (2014年4月1日現在)

館			学芸部			解説員		
館長	石森	秀三	学芸部長(兼)	出利	葉浩司	主事(非常勤)	青木	朱美
副館長	関下	祐二	主任学芸員	右代	啓視	主事(非常勤)	麻生	典子
学芸副館長	出利	葉浩司	資料情報課長	山際	秀紀	主事(非常勤)	斉藤	智子
総務部			研究職員	圓谷	昂史	主事(非常勤)	越田	雅子
総務部長	北	敏文	学芸員	寺林	伸明	主事(非常勤)	埤見	裕子
主任学芸員	舟山	直治	研究交流課長	水島	未記	主事(非常勤)	福島	奈緒子
総務課長(兼)	北	敏文	学芸員	小林	幸雄	主事(非常勤)	堀	泰子
主幹	川田	宣人	学芸第一課長(兼)	水島	未記	主事(非常勤)	山田	日登美
主査	中野	淑行	学芸員(兼)	右代	啓視	主事(非常勤)	浅井	雅世
主査	山口	拓磨	学芸員(兼)	堀	繁久	主事(非常勤)	工津	尋美
主査	宮原	雄二	学芸員(兼)	杉山	智昭	主事(非常勤)	折館	里佳
主査	藤本	剛	学芸員(兼)	添田	雄二	主事(非常勤)	今村	ゆみ子
副主幹兼主査	後藤	孝夫	学芸員(兼)	鈴木	琢也	主事(非常勤)	辻	幸恵
主任	西尾	千秋	研究職員(兼)	圓谷	昂史	主事(非常勤)	川村	昌江
主事	徳本	彩	学芸員(兼)	小林	幸雄			
企画調整課長	池田	貴夫	学芸第二課長(兼)	山際	秀紀			
学芸員	鈴木	琢也	学芸員(兼)	舟山	直治			
サービス広報課長	杉山	智昭	学芸員(兼)	池田	貴夫			
学芸員	添田	雄二	学芸員(兼)	青柳	かつら			
主任	櫻井	万里子	学芸員(兼)	會田	理人			
事業部			学芸員(兼)	小林	孝二			
事業部長	村上	孝一	学芸第三課長(兼)	三浦	泰之			
主任学芸員	堀	繁久	学芸員(兼)	山田	伸一			
展示課長	山田	伸一	学芸員(兼)	東	俊佑			
学芸員	青柳	かつら	学芸員(兼)	山際	晶子			
学芸員	會田	理人	学芸員(兼)	寺林	伸明			
学芸員	小林	孝二						
教育普及課長	三浦	泰之						
学芸員	東	俊佑						
学芸員	山際	晶子						
教育振興課長(兼)	堀	繁久						

利用者数の推移

	館内	館外	歴史ギャラリー	計
2004年度	109,838	4,694	434,930	549,462
2005年度	69,293	11,305	439,879	520,477
2006年度	86,136	4,608	441,084	531,828
2007年度	95,193	5,279	411,025	511,431
2008年度	84,663	4,330	411,849	501,728
2009年度	90,444	3,054	361,675	455,173
2010年度	101,682	614	391,724	494,020
2011年度	117,522	366	317,284	435,172
2012年度	115,997	0	397,373	513,370
2013年度	60,426	3,004	408,542	471,972

利用者数 Number of Visitors

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
館内	常設展示室	2012	4,541	6,995	4,431	4,691	8,173	11,163	6,747	2,351	1,050	950	1,074	1,322	53,488
		2013	1,492	4,233	5,339	4,344	6,907	11,810	6,177	824	0	0	0	0	41,126
	特別展示室	2012	8,472	9,154	0	3,096	5,853	9,177	2,407	1,816	773	998	920	673	43,339
		2013	456	1,840	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,296
	体験学習室	2012	1,121	2,147	1,136	1,426	2,779	3,957	1,982	835	351	244	241	318	16,537
		2013	500	964	1,533	1,070	2,167	3,109	2,260	825	806	685	679	896	15,494
	講演・講座等	2012	641	98	242	95	253	241	202	310	161	9	97	192	2,541
		2013	28	135	83	47	221	432	153	106	0	0	0	0	1,205
	資料閲覧	2012	3	9	11	7	8	12	6	16	4	3	5	8	92
		2013	3	9	7	10	9	4	5	0	1	3	0	1	52
学校対応	2012	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2013	0	0	0	0	0	208	45	0	0	0	0	0	253	
小計	2012	14,778	18,403	5,820	9,315	17,066	24,550	11,344	5,328	2,339	2,204	2,337	2,513	115,997	
	2013	2,479	7,181	6,962	5,471	9,304	15,563	8,640	1,755	807	688	679	897	60,426	
館外	移動展等	2012	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		2013	0	0	0	0	0	606	684	163	320	920	146	0	2,839
	公開講座等	2012	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		2013	0	0	0	0	0	21	24	36	23	24	37	0	165
	学校対応	2012	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		2013	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	2012	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		2013	0	0	0	0	0	627	708	199	343	944	183	0	3,004
	合計	2012	14,778	18,403	5,820	9,315	17,066	24,550	11,344	5,328	2,339	2,204	2,337	2,513	115,997
		2013	2,479	7,181	6,962	5,471	9,304	16,190	9,348	1,954	1,150	1,632	862	897	63,430
歴史ギャラリー	2012	22,104	34,340	34,697	50,048	61,138	42,363	36,733	23,333	20,230	18,785	30,257	23,345	397,373	
	2013	18,384	32,277	40,056	46,250	63,035	42,657	37,782	23,876	23,220	20,425	33,543	27,037	408,542	
総計	2012	36,882	52,743	40,517	59,363	78,204	66,913	48,077	28,661	22,569	20,989	32,594	25,858	513,370	
	2013	20,863	39,458	47,018	51,721	72,339	58,847	47,130	25,830	24,370	22,057	34,405	27,934	471,972	

※2012・2013年度はリニューアル準備作業のため、館外で行なう事業などを一部休止しています。

施設 Facilities

館の位置と環境

北海道開拓記念館は、札幌市の中心部から東方約11～15kmに位置する道立自然公園野幌森林公園の中に位置しています。この公園は、昭和43年(1968)5月に北海道百年を記念して、自然公園法に基づく自然公園として指定されたものです。札幌市、江別市及び北広島市の3市にまたがる公園の区域は、標高20～90mのなだらかな丘陵地に広がる森林を主とし、2,053haの面積を有し、大都市の近郊にある自然性の高い平地林としては世界的にも例が少ない貴重なものです。

公園の主体をなす国有林約1,600haは、昭和の森・野幌自然休養林として石狩森林管理署が遊歩道や学習施設を整備し、管理しています。公園内の遊歩道の総延長は30km以上に及び、散策、自然観察や冬の歩くスキーなどに利用されています。国有林の西側に接する道有地の一部は記念施設地区となっており、北海道開拓記念館のほか、野外博物館としての北海道開拓の村や北海道百年記念塔などを集中的に設置しています。また、平成13年(2001)4月には大沢口に、公園利用者の中核施設として、自然ふれあい交流館が設置されました。

公園に接する付近一帯には、道立図書館、道立教育研究所、道立埋蔵文化財センターや大学、高等学校などがあり、札幌市と江別市の文教地区ともなっています。

野幌森林公園は、一般には野幌原始林として知られていますが、公園区域内の天然林には、風害の処理のための伐採や補植など、何らかの人手が加えられており、実際に人手の加わっていない「原始林」はありません(国指定特別天然記念物「野幌原始林」は、公園区域から離れた北広島市内の国有林内にある)。それでも公園区域内の天然林には、温帯林から亜寒帯林への移行帯に位置する森林の様子が比較的良好に残されていて、ミズナラ、カツラ、シナノキなどの温帯性の広葉樹林、トドマツを主体とする亜寒帯性の針葉樹林、これらの樹種が入り交じった針広混交林からなる、多様な林相が見られます。人工林も全体の40%ほどを占めるようになっていて、明治の末から林業試験場によって試験植栽されたストロブマツやトウヒなど、60種を超える外来樹種が見られ、大径木も多くあります。

公園内には、キツネ、タヌキ、ユキウサギ、エゾリス、エゾモモンガ、ヒメネズミなどの小・中哺乳動物が生息しています。また、天然記念物のクマゲラを始め、ウグイス、オオルリ、キビタキ、シマエナガ、シジュウカラ、アカゲラなど、およそ140種の野鳥が記録されています。



建物の基本構想と設計

北海道開拓記念館の建物の設計は、この建物自体が永く後世に残る記念建造物となるようにとの当時の町村金吾北海道知事の要望により、その建設計画を北海道とは縁りの深い佐藤武夫博士の主宰される佐藤武夫設計事務所に委託し、野幌産出の赤れんがを豪壮に用いた芸術性の高い建物が完成しました。

また、博物館としての性格、機能、展示構想などは、当時北海道史編纂を行っていた犬飼哲夫(初代館長)、高倉新一郎(第2代館長)が中心となり、展示室の空間計画を飯田勝幸(当時北海道大学工学部建築工学科助教授)、展示ディスプレイ・デザインを北海道出身のデザイナー栗谷川健一の「北海道デザイン研究所」(現・北海道造形デザイン専門学校)が担当しました。この建築家・学者・展示の三者連携による博物館づくりの思想は、メキシコの国立人類学博物館をモデルにしたものでした。

※1973年に本館は日本建築学会賞を受賞しました。

施設の概要

北海道開拓記念館は、地下2階、地上2階一部中2階建で、その延面積は12,945㎡です。これを部門別にみると、管理部門18.4%、展示部門32.3%、教育普及部門4.2%、研究部門6.2%、資料管理部門17.3%、共用部門21.6%となります。構造は、鉄筋コンクリート、一部鉄骨鉄筋コンクリート造であり、外装は、主として地元野幌産のれんが積みにアルミ電解発色材の柱を配しており、内部も、グランドホール、ホール、講堂、記念ホール、休憩スペース(旧食堂)などの主要な室の壁はれんが積みとなっています。

主要室の配置は、1階には玄関、グランドホール、記念ホール、館長室、事務室等の管理部門諸室と常設展示室を配し、2階には常設展示室、特別展示室、中2階は休憩スペースを配しています。地下1階には200人収容の講堂、体験学習室等の教育普及部門のほか、写場、文献収蔵庫、収蔵陳列室、研究室が配され、地下2階には収蔵庫と資料搬入搬出のための作業諸室が設けられ、収蔵庫の一部は恒温恒湿収蔵庫として重要資料の収蔵にあてられ、そのほか冷暖房機械室、給排水ポンプ室、受変電室などが配されています。

- 1 敷地面積16,258㎡
- 2 建築面積4,018㎡
- 3 建築延床面積12,947㎡
- 4 主要室の床面積(端数整理)

展示室	常設展示室	3,011㎡
	収蔵陳列室	406㎡
	特別展示室	489㎡
収蔵庫	恒温恒湿室	415㎡
	大型収蔵庫	475㎡
	積層収蔵庫	1,096㎡
講堂		363㎡
体験学習室		140㎡
旧解説員控室		56㎡
事務室		314㎡
館長室		37㎡
応接室		28㎡
副館長室		24㎡
会議室		37㎡
記念ホール		270㎡
休憩スペース		391㎡
旧厨房		74㎡
グランドホール		264㎡
機械室		1,446㎡
産業史研究室		39㎡
保存科学研究室		42㎡
生活史研究室		39㎡
地史研究室		42㎡
歴史研究室(1)		18㎡
歴史研究室(2)		40㎡
情報サービス室		45㎡
文献収蔵庫・図書室		211㎡
電子顕微鏡室		44㎡
民族研究室		16㎡
写場・暗室		75㎡
生物・考古学研究室		124㎡
工作室		64㎡
滅菌室		44㎡
資料カード室		44㎡
展示準備室		36㎡
制御室		20㎡
映像展示室		176㎡

5 外部仕上げ	
屋 根	アスファルト防水層、コンクリート金こて仕上げ
庇	軒先アルミ板折曲加工、電解発色仕上げ
壁	煉瓦半枚フランス積貼、紋様入
独 立 柱	キャストアルミ、電解発色仕上げ
南面デッキ	袖壁花崗岩(小叩き)張り、上部床花崗岩(円盤摺)敷き

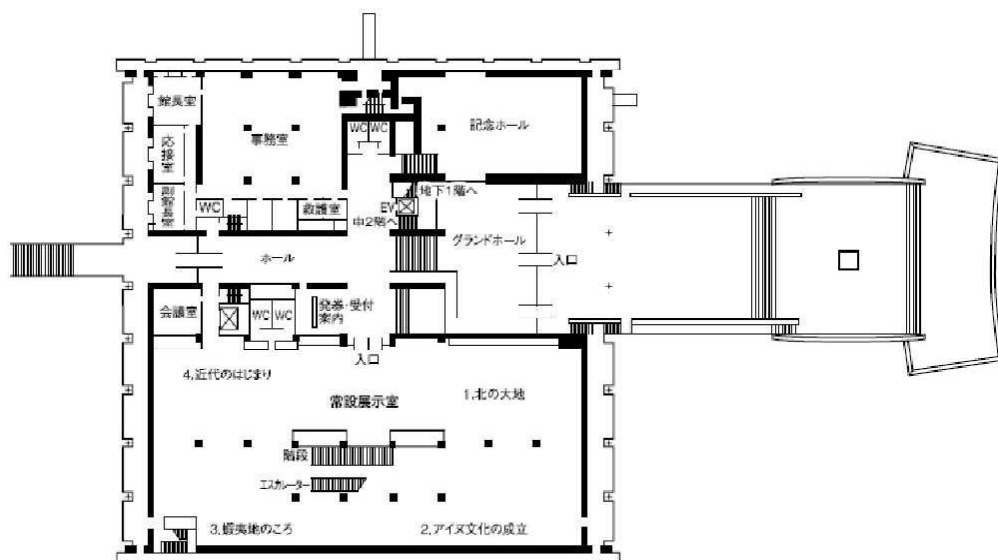
6 内装仕上げ			
室 名	床	腰 壁	天 井
グランドホール	花崗岩(円盤ずり)敷き、ボーダー水みがき仕上げ、一部大理石モザイク紋様張り	れんがフランス積みはり(一部紋様入り)	エポキシ系マット塗料仕上げ、はり型アクリルクリヤ仕上げ
記念ホール	カーペット敷き	上に同じ	エポキシ系マット塗料仕上げ、はり型アルリルクリヤ仕上げ
講 堂	モザイクパーケットブロック張り	れんが表手積(黄色)、一部透積、裏面グラスウール㊦20mm張り	岩綿吸音板張り
副館長室	カーペット敷き	合板練付C.L	上に同じ
館長室	上に同じ	上に同じ	上に同じ
応接室	上に同じ	上に同じ	特別織り布張り
研究室	ビニール系アスベストタイル張り	上に同じ	上に同じ
常設展示室	モザイクパーケットブロック張り、ワックスみがき	発泡合成樹脂板打ち込みモルタル塗	岩綿吸音板張り
体験学習室	モザイクパーケットブロック張り	モルタル金こて仕上げ目地切り、キャンパス張り	上に同じ
解説員控室			
収 蔵 庫	リノリウム張り	モルタル金こて仕上げEP(A)およびフレキシブルボード目透張りV.P	コンクリート打ち止め、白セメント吹き付けおよびフレキシブルボード目透張りV.P
休憩スペース前	モザイクパーケットブロック張り、ワックスみがき	れんがフランス積みはり(黄色)	ひる石プラスター吹き付け
ロ ビ ー			
レ ス ト ラ ン	上に同じ	上に同じ	合板練付C.L

7 付帯設備	
空 気 調 節 設 備	室内条件 収蔵庫・展示室＝室温夏季25度・関係湿度55±5%、冬季22度・55±5%、一般部分＝室温夏季25度・関係湿度55±5%、冬季22度・55±5% 冷熱源 吸収式冷凍機1基、冷房能力108万8,760kcal/時 空調系統 単一ダクト方式＝常設展示室・特別展示室・講堂・事務室・ホール・記念ホール・収蔵庫・恒休憩スペース
電気設備	変電・自家発電・舞台照明・動力・昇降機・放送・映写(16mm)・音響・その他
衛生設備	給水＝全館水道水使用、給湯・排水・消火・プロパンガス・恒温恒湿室炭酸ガス

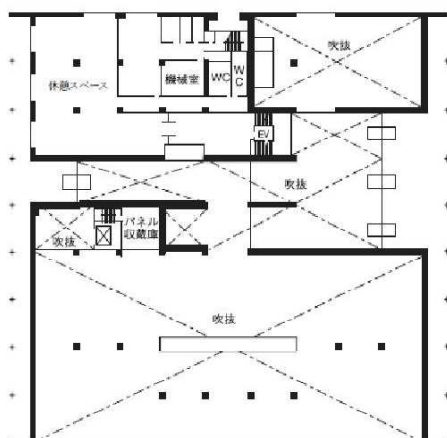
8 研究室のおもな備品

エネルギー分散形X線分析装置(EDSJED-200/ミニカップ型)、走査型電子顕微鏡(JSM-200)、真空蒸着装置(JEE-4B)、生物顕微鏡(オリンパスBX40-31)、金属顕微鏡(オリンパスBK)、実体顕微鏡(オリンパスSZX9-3122)、凍結乾燥装置(ヤマトDC-31)、滅菌装置(酸化エチレン、臭化メチルガス用)(特許理化製SK式角型特号)、遠心分離器(クボタKN-70)、トランシットフィールドステーション(ニコンGF-305C)

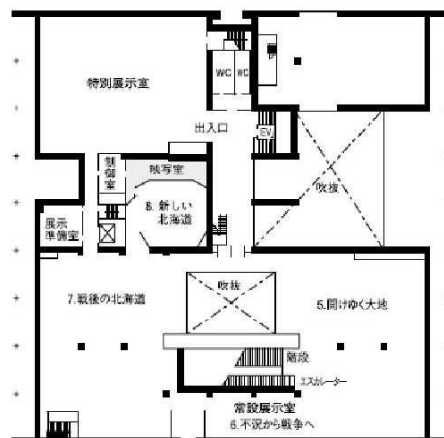
1 階平面図



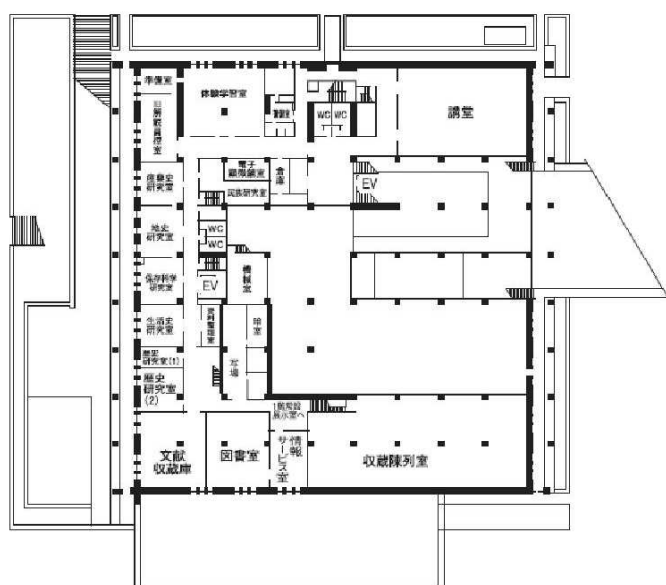
中2 階平面図



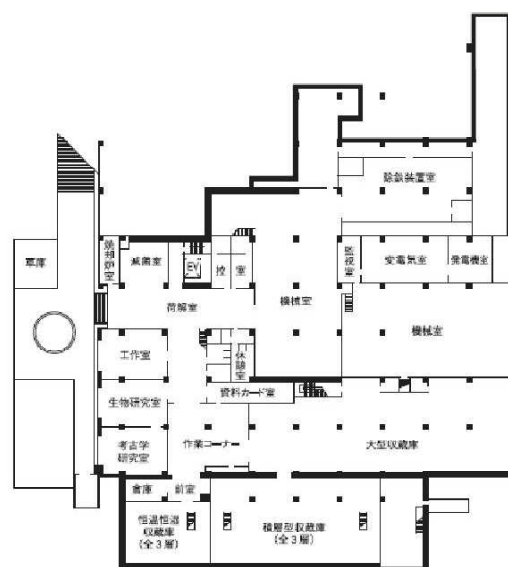
2 階平面図



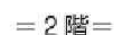
地下1 階平面図



地下2 階平面図



1992年4月に全面改訂した新常設展示では、先人が北国の環境の中できずきあげてきた北海道の生活文化を時代をおって8つのテーマにまとめ、1階には先史時代から明治時代前半の開拓初期まで、2階には明治時代後半の北海道庁による拓殖計画の時期から昭和40年代の経済の高度成長期まで、および北海道の現状と未来を展示しています。



テーマ1「北の大地」  北海道に住んだ人びとの生活基盤となった自然環境の変化を、第四紀の初めから示すとともに、約2万年前から6世紀までの先史時代の人びとの生活と文化を展示しています。	テーマ2「アイヌ文化の成立」  和人が渡来する以前からこの島に居住して固有の言語をもち、神々を敬い、狩猟や漁労、植物採集を基盤とする独自の生活文化をもったアイヌ民族の文化と、その母体といわれる擦文文化や、サハリンから南下したオホーツク文化について展示しています。	テーマ3「蝦夷地のころ」  中世の蝦夷地や和人社会の成立、近世における松前藩の成立や繁栄、場所請負制のもとでの漁業の発達と日本海海運の隆盛、外国の進出と幕府の北方経営などを示すとともに、幕末箱館開港によって外国文化が流入した状況も展示しています。	テーマ4「近代のはじまり」  開拓使によって本格的におしすすめられた明治初期の開拓状況や、移住者の生活などを示すとともに、欧米技術・文化を導入した新しい産業や札幌農学校、千島樺太領土画定とアイヌ民族などについて展示しています。
テーマ5「開けゆく大地」  北海道庁が設置された明治19年以降における移住の様子をはじめ、開拓の進展状況や未開地での生活、各種産業や交通の発達を示すとともに、開拓期の社会問題や自治権獲得の活動なども展示しています。	テーマ6「不況から戦争へ」  第1次世界大戦後から昭和初期にかけての道東地方を中心とした移住・開拓、不況・凶作・凶漁のもとでの産業の転換、生活文化の新しい動き、労働・小作争議などの社会運動、戦時体制下の社会状況などを展示しています。	テーマ7「戦後の北海道」  昭和20年以降における物資・食料不足の状況、昭和30年代からはじまる経済の高度成長にともなう、大きく変化する産業の様子や生活文化の転換を展示しています。	テーマ8「新しい北海道」  今日における北海道の自然や文化、生産活動などの様子を6面の映像と音響によって示し、自然環境の保護、伝統文化の継承と活力ある産業・経済の発展、新しい生活文化の形成など、新しい北海道の創造をめざす動きを展示しています。

特別展示室 Special Exhibition Room

特別展示室は、常設展示室の2階出口を出て進んだ左手に位置しています。面積約500㎡、固定ケースや移動・組立て可能なケース、パネルなどが設備されている展示室で、特別展とテーマ展を開催します。

特別展：常設展示で扱っている北海道の歴史についてさらに内容を深めた展示、あるいは特定の分野・主題などについての展示を、年に1、2回一定期間開催します。観覧料は有料です。

テーマ展：特別展示に比較して小規模な展示で、年に数回、開催します。この展示は、学芸員の日頃の研究成果の発表や記念館が所蔵している資料をより多く公開することを目的としています。観覧料は無料です。

収蔵陳列室 Classified Exhibition Room

収蔵陳列室は、常設展示室と性格を異にし、特定の専門分野・研究領域ごとに整理した資料を分類展示しています。

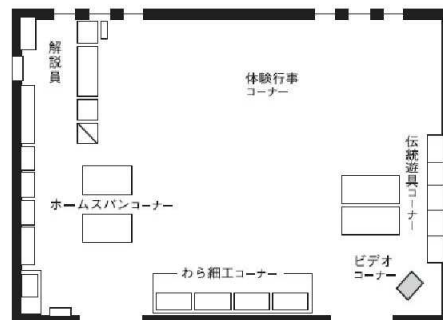
常設展示は一つのストーリーを持ち、総合的な展示であるのに対し、収蔵陳列室の展示構成はより専門性をもたせ、さらに常設展示を補足することを目的としています。展示の方法は「地学」、「考古」、「生物」、「民族」、「生活」、「産業」、「文書」、「美術」、「保存技術」、「地図」の部門に分け、各部門の所蔵資料を体系的に整理し展示しています。これらの資料は必要に応じて各部門の担当者が、研究の蓄積やその動向、道民の問題意識や関心のあり方、さらに当館収蔵資料の性格などを十分に考慮して適宜、展示換えを行なっています。また、展示資料収納用ケースは、戸棚を主体とした上段がガラス張りのケースで、下段は複数の引出しを備えたものとなっています。

当室内には陳列資料について詳しくした資料解説シートがあり、来館者あるいは研究者が、それぞれ興味や専門とする分野について理解を深めることができます。なお、当室内の陳列資料は、約3,000点です。



体験学習室 Living Experience Room

体験学習室は、常設展示室や収蔵陳列室のように資料を展示ケースを通して見るのではなく、実際にものに触れたり、動かしたり、作ったりすることによって、北海道の自然・歴史・文化を楽しく学んでもらうための部屋です。体験学習室には、常時体験できるコーナーと年数回の体験学習行事を体験できるコーナーを設けています。いつでも体験できるコーナーでは、ホームスパン、わら細工、伝統遊具を常時体験できます。ホームスパンでは機を使ってコースターなどを織ることができ、わら細工ではわらじ・つまごなどの生活用具に触れるだけでなく、わら打ち、縄ないや製品作りを行なうことができます。また伝統遊具では、お手玉・おはじき・竹わり・パッチ・コマまわしなどの遊具で遊ぶこともできます。解説員が常駐し、必要に応じて各コーナーの実技指導や解説を行なうとともに、開館中来館者が自由に利用できるように配慮しています。さらに、体験学習室では、学習活動を深めるための図書やビデオを備えています。



情報サービス室 Library, Information Service

情報サービス室には記念館の出版物のほか、図鑑や一般図書などを備えて、来館者が閲覧できるようになっています。ここには司書が配置されていて、来館者のさまざまな質問や記念館の利用についての相談に応じています。所定の手続きをとることにより、専門的な研究や教材づくりなどのために開拓記念館が所蔵する資料を調べたり、写真撮影を行なうことができます。常設展示室中央の階段で、中地階に降りたところにあります。



講堂 Auditorium

講堂は、グランドホールから階段を降りた地下1階に位置しています。200人程度収容可能で、館主催の講座・講演会など、さまざまな行事に利用されています。また、学校団体等のオリエンテーションやサービス講座、昼食会場、荷物置き場としても活用されています。



記念ホール Memorial Hall

記念ホールは館の象徴として計画され、各種の式典に使用されています。床には赤いカーペットが敷かれ、正面には、北海道の風物を織り込んだタペストリー（壁掛）が掛けられています。入り口を入って左側、正面と向き合った壁の一面には、北海道の産業や生活に重要な役割を果たしてきた馬を供養する意味で、大小1,600個の蹄鉄が壁面に打ちつけてあります。



調査研究 Research Activities

当館では、北海道のおいたちや、そこに暮らした人びとの歴史・文化を明らかにするために、①当館が収集し、保管し、展示する資料に関する基礎的情報の調査とより専門的な研究、②資料の保管および展示等に関する研究、③資料をより総合化するための研究(分野別研究)を行なっています。その成果は館の各種刊行物、展示、教育普及などの諸活動に生かされ、館活動の基礎となっています。

1 館資料に関する基礎的・専門的調査研究

当館の収蔵資料は、資料1点ごとに資料記録票が作成され、年代、地域、形状、由来などの資料情報が記入されます。この資料記録票に記入されることがらは、個々の資料がもつ第一次情報となり、博物館施設としての当館の諸活動の原点となるものです。

2 館活動に関する基礎的・技術的調査研究

当館が博物館施設として特に展示、教育普及、資料保存等の業務をより効果的に進めるための博物館学的研究が日常的に行なわれています。

3 館資料の総合化のための分野別研究

収蔵資料の総合化を進めるため、特定の研究課題や特定地域を選定した共同調査など、総合的な研究を「分野別研究」として実施しています。この分野別研究は、館内に「調査研究選定委員会」、「研究課題評価会議」を設置し、研究課題の採択、課題ごとに研究評価を実施しています。

2013年度の調査研究活動

1 分類別資料に関する調査研究

館資料の整理・体系化は、各学芸職員の専門性をいかし日常的に実施しています。学芸第一課の考古、地史、動植物などの資料、学芸第二課の生活(民俗)、産業、民族などの資料、学芸第三課の北海道史関係の文献、美術などの資料が整理され、研究されています。これらの成果については、研究紀要などで報告され、また展示や普及事業で活用されています。

2 分野別調査研究(4件)

研究期間	研究課題	研究代表者	研究分担者
平成22～26年度	野幌森林公園の生物インベントリ調査2	堀繁久	水島未記、杉山智昭、濱本真琴、扇谷真知子(自然ふれあい交流館)
平成22～25年度	北方四島の先史文化研究と博物館交流の基礎づくり	右代啓視	鈴木琢也、村上孝二
平成24～27年度	モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近視	池田貴夫	会田理人、青柳かつら、山際秀紀、舟山直治、村上孝一、 代史一世代開対話の場としての博物館づくりに向けて
平成23～26年度	北海道史および北東アジア史に関する画像資料の活用に関する研究	三浦泰之	東俊佑、杉山智昭、寺林伸明、山田伸一、山際晶子

3 科学研究費補助金による調査研究(13件)

研究種目	研究期間	研究課題	研究代表者
継続 基盤研究(B)	平成23～26年度	千島列島における先史文化の考古学的基礎研究ー特に北方四島を中心にー	右代啓視
継続 基盤研究(C)	平成22～25年度	北海道史における淡水雑魚の多目的資源化に関する民俗学的研究	池田貴夫
継続 基盤研究(C)	平成24～26年度	縄文文化の漆器の製作技術を復元するための研究	小林幸雄
継続 基盤研究(C)	平成24～27年度	明治期北海道におけるアイヌ民族の土地所有と利用に関する研究	山田伸一
継続 基盤研究(C)	平成24～28年度	北海道におけるアイヌ文化成立期以前の建築活動に関する基礎的研究	小林孝二
新規 基盤研究(C)	平成25～29年度	西回り航路を介して北海道に伝播した大祓の祭祀と伝承をめぐる諸問題の民族学的研究	舟山直治
新規 基盤研究(C)	平成25～28年度	北海道内に所在する北海道外関係の近世武家文書に関する基礎的研究	三浦泰之
新規 基盤研究(C)	平成25～28年度	古代日本列島北部地域における文化集団の移動に関する基礎的研究	鈴木琢也
新規 基盤研究(C)	平成25～27年度	アムール川下流域で生産された装飾品及び外来交易品の周辺諸民族への波及に関する研究	東 俊佑
継続 若手研究(B)	平成23～25年度	文化財公開施設等における汎用的な高精度微生物汚染評価システムの構築に関する研究	杉山智昭
継続 若手研究(B)	平成23～25年度	北海道における小氷期最寒冷期の寒候とアイヌ民族との関係	添田雄二
継続 若手研究(B)	平成24～26年度	限界集落再生をめざした博物館を核とする地域資源ナレッジマネジメントに関する研究	青柳かつら
継続 若手研究(B)	平成24～26年度	画像資料の分析による「義経蝦夷渡伝説」の受容についての研究	山際晶子

研究成果の発信と公開

学芸職員の個別研究課題、分野別研究、科学研究費補助金などによる調査研究の成果を広く社会に公開するため、当館では研究紀要や報告書を作成し、北海道の歴史・文化、自然、博物館学に関する論文、研究ノート、資料紹介を掲載することで、研究成果の発信と公開に努めています。また、専門書や学術雑誌への論文等の寄稿や、他機関主催の講座・講演会などへの職員の講師派遣、研究会や学会での発表も行なっています。

『北海道開拓記念館研究紀要』第42号(2014年3月刊行)執筆一覧

タイトル	執筆者
地域再生を目指した博物館を核とする地域資源ナレッジマネジメントに関する研究－住民参加による地域資源マップ製作－	青柳かつら
「アイヌ文化の漆桶」の形態分類に関わる基礎的研究(2)－「熊図文入漆桶」と「津軽塗(系)漆桶」(似注目して)－	小林幸雄
スター・バッチャーそしてセントルイスに行ったアイヌの人びとをめぐる北海道でのできごと	出利葉浩司
調査報告	
北海道における小氷期最寒冷期の実態とアイヌ民族との関係Ⅲ	添田雄二・菅野修広・青野友哉・永谷幸人・三谷智広・中村賢太郎・松田宏介・河畑敦史・上中央子・宮地 鼓・渡邊 剛・渋谷綾子・伊達元成
－伊達市カムイタブコブ下遺跡での調査速報－	右代啓視・鈴木琢也・藪中剛司・高橋勇人・村上孝一・スロヴァティツィーナ・V.M.
北方四島の先史文化研究と博物館交流の基礎づくり(Ⅳ)	山際晶子
寒冷地稲作の普及過程における水稲直播器の考案と利用について	山際晶子
戦前・戦後の北海道を生きた撮影技師・栃木栄吉の生涯－北海道記録映画史序説－	三浦泰之
小島雪雄筆「ツキノエ肖像画」について	山際晶子
『蝦夷古記』について－滋賀県大津市西教寺所蔵の蝦夷地関係資料－	山際晶子
『小樽新聞』掲載明治三陸地震・津波関係記事：目録と紹介	会田理人
神楽関係資料からみた移住者の祭神と神楽の継承(一)	舟山直治

2013年度専門書・専門誌への論文等その他年間執筆一覧(館出版物以外)(19件)

青柳かつら「地域のお宝を活用して天塩川流域の暮らしを元気に！～士別市朝日町郷土資料室を核とした山村文化保存・教育普及活動の事例～」『北海道北部の地域振興14』道北の地域振興を考える研究会、pp. 28-50
青柳かつら「伝えたい 山村地域の魅力」『士別市朝日町 知恵の蔵おすすめマップ』を製作して『山つくり』、p.11
青柳かつら「地域再生をめざした博物館を核とする地域資源ナレッジマネジメントに関する研究(2):住民参加による地域資源マップ製作」『第125回日本森林学会大会学術講演集』日本森林学会、p.175
小林孝二「富良野市の歴史的建造物調査報告書」富良野市
池田貴夫「アイヌのクマ送り儀礼」『ユリイカ』通巻633号、青土社、pp.84-90
池田貴夫「引き揚げた人、残された人－樺太引揚者とサハリン残留朝鮮人が残してくれたもの－」『引揚者の戦後』通巻633号、新曜社、pp.213-235
右代啓視「オホーツク文化のシャマニズムを探る－オホーツク文化の信仰と儀礼－」『シャマニズムの淵源を探る』弘前学院大学地域総合文化研究所、pp.409-424
右代啓視「北方四島の考古学」『中華文明の考古学』同成社、pp.113-140
Tomoaki Sugiyama「Evaluation of the anoxia treatment as the emergency measure for cultural properties affected by Tsunami」『Abstracts of 3rd International Symposium on Conservation of Cultural Heritage in East Asia』The Society for Conservation of Cultural Heritage in East Asia、p.216-217
杉山智昭・小林幸雄・魚島純一「被災現場における緊急避難措置としての脱酸素処理法の評価－糸状菌の活動抑制に関する効果および課題－」『文化財保存修復学会第35回大会研究発表要旨集』文化財保存修復学会、pp.132-133
杉山智昭「微生物汚染領域の高精度判定による処理・環境改善効果の検証」『日本文化財科学会第30回大会研究発表要旨集』日本文化財科学会、pp.336-337
鈴木琢也「擦文文化にシャマニズムを探る－擦文文化の儀礼－」『シャマニズムの淵源を探る』弘前学院大学地域総合文化研究所、pp.141-174
DERIHA, Koji「Trade and the Paradigm Shift in Research on Ainu Hunting Practices」Hudson, Mark J.; Lewallen, Ann-Elice ; Watson, Mark K (Eds.)『Beyond Ainu Studies: Changing Academic and Public Perspectives』University of Hawaii Press、pp.136-149
堀繁久「ゲンゴロウが減っている」『北海道 水辺の生きものの不思議』北海道新聞社、pp.31-55
三浦泰之「好古家松浦武四郎の交友関係と人物像」『静嘉堂蔵松浦武四郎コレクション』公益財団法人静嘉堂、pp.109-112
三浦泰之「松浦武四郎記念館所蔵『絵葉書帖(木片勸進関係絵葉書帖)』について(4)」『松浦武四郎研究会会誌』第67号、松浦武四郎研究会、pp.16-19
三浦泰之「松浦武四郎記念館所蔵『絵葉書帖(木片勸進関係絵葉書帖)』について(終)」『松浦武四郎研究会会誌』第69号、松浦武四郎研究会、pp.15-23
三浦泰之「松前城下の“俠客”松川屋政次郎」『松浦武四郎研究会会誌』第69号、北海道史研究協議会、pp.11-14
山際晶子「研究大会要旨 義経蝦夷渡伝説を描いた絵画について」『北海道史研究協議会会報』第93号、北海道史研究協議会、p.22

2013年度職員の講座・講演会、高等教育機関(大学等)への年間講師等派遣(20件)

派遣者	タイトル・科目名	講座・講演会名、出講先	開催地	期日
会田理人	鮭はどこに行ったのか	第50回石狩さけまつり記念パネルディスカッション	石狩市	9月7日
会田理人	北海道漁業史－見えるコト・見えにくいコト－	東京農業大学生物産業学部	網走市	12月6日
池田貴夫	北海道らしさの秘密	砂川市公民館	砂川市	11月19日
池田貴夫	なにこれ？ 北海道のぐらし	北翔大学エクステンションセンター	江別市	12月3日
池田貴夫	発見！魅惑の札幌	札幌市生涯学習センター	札幌市	2月13日
青柳かつら	探してみよう！あさひのお宝：朝日町郷土資料室を核とした地域資源の魅力再発見の取り組み	朝日公民館・知恵の蔵運営委員会共同開催事業「ふるさと講話会」	士別市	10月30日
右代啓視	北方四島の歴史と先史文化	江別市郷土資料館講演会	江別市	5月18日
右代啓視	北の土偶	札幌市社会教育協会・高齢者市民講座	札幌市	7月17日
右代啓視	北海道の歴史と北方領土	中学校特別授業	苫前町	7月18日
右代啓視	北海道の歴史と北方四島	教員研修	札幌市	8月6日
右代啓視	過去の気候変動と北方文化	札幌市社会教育協会・高齢者市民講座	札幌市	11月19日
鈴木琢也	北日本における古代末期の交易ルート	第30回サイエンス・サロン	札幌市	10月25日
寺林伸明	北東アジアにおける帝国のプレゼンスと地域社会	白木沢科研究研究会	札幌市	8月
寺林伸明	「満洲開拓団」の日中関係者証言に見る“五族協和”の実態について	日本植民地研究会	東京都	1月13日
寺林伸明	北東アジアにおける帝国のプレゼンスと地域社会	白木沢科研究研究会	札幌市	3月21日
池田貴夫	博物館実習Ⅲ	北海学園大学	札幌市	通年
右代啓視	博物館概論	苫小牧駒澤大学	苫小牧市	前期
右代啓視	考古学	苫小牧駒澤大学	苫小牧市	前期
出利葉浩司	博物館展示論	北星学園大学	札幌市	前期
出利葉浩司	北海道文化論	北星学園大学	札幌市	前期

2013年度職員の研究会・学会での発表(20件)

発表者	タイトル	研究会・学会名	会場	期日
青柳かつら	林業の歴史を地域づくりに活かす:士別市朝日町の事例から	地域再生をめざした博物館を核とする地域資源ナレッジマネジメントに関する研究(2):住民参加による地域資源マップ製作	江別市	5月6日
山田伸二	近現代アイヌ史研究の現在と日本史学	日本史研究会例会	京都府京都市	5月18日
杉山智昭	微生物汚染領域の高精度判定による処理・環境改善効果の検証	日本文化財科学会	青森県弘前市	7月6・7日
添田雄二ほか(筆頭)	北海道伊達市有珠の遺跡群から発見された1640年の津波堆積物	日本文化財科学会	青森県弘前市	7月6日
添田雄二ほか(筆頭)	北海道伊達市カムイタプコブ下遺跡から復元されたアイヌ文	日本文化財科学会	青森県弘前市	7月7日
右代啓視	化期の古環境調査速報	北方島文化研究会	稚内市	7月13日
鈴木琢也	11～13世紀の北海道考古資料集成	科学研究費・基盤研究(B)「平泉研究の資料学的再構築」第一回研究会	岩手県平泉町	7月14日
杉山智昭	被災現場における緊急避難措置としての脱酸素処理法の評価(Ⅱ)-紙資料に対する糸状菌の活動抑制効果-	文化財保存修復学会	宮城県仙台市	7月20・21日
小林幸雄	X線CTによる「アイヌ文化伝世の漆椀」の内部構造調査	文化財保存修復学会	宮城県仙台市	7月21・22日
三浦泰之	Relations between Development and Deforestation in Hokkaido(in Japan)(北海道の開拓と森林伐採)	International Symposium on Development and Change of Environment in East Asia; Past and Future	韓国	8月8日
山際晶子	義経蝦夷渡伝説を描いた絵画について	北海道史研究大会	札幌市	9月3日
Tomoaki Sugiyama	Evaluation of the anoxia treatment as the emergency measure for cultural properties affected by Tsunami	3rd International Symposium on Conservation of Cultural Heritage in East Asia	韓国	9月5・6日
三浦泰之	好奇心と知の巨人 松浦武四郎	さっぽろ市民カレッジ2013秋期 ちえりあ学習ボランティア講座	札幌市	10月9日・16日
三浦泰之	芸能興行から近世北海道の地域社会を眺める	資料で語る北海道の歴史(第12回)講演会	江別市	11月16日
右代啓視	北方文化とアイヌ文化	研究会	江別市	12月6日
DERIHA, Koji	The Ainu Studies in Japan, Past, Present and Future from the viewpoint of Japanese Archaeology	International Symposium “Comparative Studies of Indigenous Cultures around the North Pacific Rim: Focusing on Indigenous Rights and Marine Resource Utilization”	大阪府大阪市	1月11～13日
山際晶子	《夷酋列像》の表現技法	芸術学研究室研究会	札幌市	2月24日
会田理人	災害と北海道移住の記憶を展示する	東日本大震災被災地域における生活文化研究の復興と博物館型統合	千葉県佐倉市	2月1日
出利葉浩司	シンポジウム「ともに歩む〈場〉を考える」シンポジスト	多元的共生空間の再生と実践知の形成に関する比較研究 ともに歩む-これからのアイヌ研究-	帯広市	3月1日
青柳かつら	地域再生をめざした博物館を核とする地域資源ナレッジマネジメントに関する研究(2):住民参加による地域資源マップ製作	日本森林学会	埼玉県さいたま市	3月29日

北方文化共同研究事業

北方文化共同研究事業は、北海道と友好提携している州省の博物館等と提携し、共通のテーマを設定して行なう共同研究です。
平成2年以來、5年を単位に海外との学術交流事業を展開し、現在は第5次の事業を行なっています。

第1次 「北の歴史・文化交流史研究事業」(平成2～6年度)
中国黒竜江省博物館(黒竜江省文物管理委員会)、ロシアのハバロフスク州郷土博物館、サハリン州郷土博物館、およびロシア科学アカデミー極東支部極東諸民族歴史・考古・民族学研究所(ウラジオストク)などの機関と提携して共同研究を実施しました。「山丹交易」と「オホーツク文化」をキーワードに、黒竜江省、ロシア・アムール川流域、サハリン州、北海道を結ぶ民族交流の道を探ることが研究課題でした。平成7年3月にその成果をとりまとめ、『「北の歴史・文化交流史研究事業」研究報告』を刊行しました。
第2次 「北の文化交流史研究事業」(平成7～11年度)
第1次と同じ4機関と提携して共同研究を実施しました。「北海道の中世社会と北方文化」の研究を中心的な課題とし、①8世紀から16世紀の自然環境と文化のかかわり、②北方文化におけるチャンの成立過程について、③アイヌ文化と北東アジア諸民族の文化のかかわり、④日本列島北部と大陸との文化交流(海の道を中心に)、の4点を柱に研究をすすめました。平成12年3月にその成果をとりまとめ、『「北の文化交流史研究事業」研究報告』を刊行しました。
第3次 「北方文化共同研究事業(前期)」(平成12～16年度)
サハリン州郷土博物館、黒竜江省文化庁、ロイヤル・アルバート博物館と提携し、「18世紀以降の北海道とサハリン州・黒竜江省・アルバータ州における諸民族と文化」を全体課題として実施しました。①19世紀以降のサハリン・北海道における民族と文化、②20世紀前半における黒竜江省諸民族と北海道移民の関係史、③先住民族に関するアルバータ州と北海道の比較研究、の三つを柱に北海道と3地域との間でそれぞれ共同研究をすすめました。平成17年3月にその成果をとりまとめ、『18世紀以降の北海道とサハリン州・黒竜江省・アルバータ州における諸民族と文化―北方文化共同研究事業研究報告―』を刊行しました。
第4次 「北方文化共同研究事業(後期)」(平成17～21年度)
第3次と同じ3機関と提携し、「北方の資源をめぐる先住者と移住者の近現代史」を全体課題として実施しました。①天然資源の利用・管理・流通、②文化資源活用の可能性―正と負の側面から―、③移住・出稼ぎと異民族との関係、の三つの系列で館内チームを編成して、3地域との間で共同調査をおこないました。平成22年3月にその成果をとりまとめ、『北方の資源をめぐる先住者と移住者の近現代史―北方文化共同研究報告―』を刊行しました。

第5次北方文化共同研究事業「北方地域の人と環境の関係史」

第5次にあたる平成22～26年度の5年間では「北方地域の人と環境の関係史についての研究」をテーマに、ロシア・サハリン州、中国・黒竜江省、アメリカ・マサチューセッツ州を対象地域に共同研究を行なっています。北海道と姉妹・友好関係にあり、亜寒帯に属するという共通性をもつこれらの地域と、お互いの歴史的な関係を探り、比較を試みようとするものであり、館内で研究チームを組織して実施しています。

環境と動植物相(北海道とその周辺地域の動植物相・気候等の現状と歴史的変化についての基礎的把握)	添田雄二 堀 繁久 杉山智昭	北方地域における環境変化と人のかかわり 北海道・サハリンにおける生物群集組成の比較 北方地域における文化財の保存
先住民による環境利用(各地域の先住民の生業活動と自然環境との相互作用)	水島未記 東 俊佑 田村将人 出利葉浩司	地域環境からみた動植物文化の再検討 蝦夷地開発・環境改変とアイヌ社会の変容 先住民による樺輪送の近現代史 人と環境の関係についての博物館展示
移住と適応(移住にともなう環境変化と生活様式の変容)	池田貴夫 小林孝二 舟山直治	川・湖沼と人間をめぐる環境民俗学 北海道住宅史研究―その研究史整理と再検討 移住にともなう環境変化と生活様式の変容過程―民間信仰と職人技術の伝承を中心に
利用と管理(野生生物や森林管理政策についての地域間比較と交流史の研究)	山田伸一 青柳かつら	森林・鳥獣の利用・管理の近代史 北方地域の森林利用史とその地域資源的活用
産業技術と人の交流(漁業・農業を中心とした産業技術の導入)	会田理人 山際秀紀 三浦泰之 山際晶子	流域・沿岸域利用の産業史 北海道の畜力による洋式農具の導入 開拓使による西洋近代技術・制度の導入 北方地域を描いた絵画における風景表現について

2013年度の調査概要

国外調査	マサチューセッツ州へ学芸員1名を派遣し、ボストン、ケンブリッジ、セイラム等において、寒冷地における文化財の保存状況等に関する調査を実施しました。(杉山智昭を派遣、1月18日～29日)
海外からの研究者招聘	サハリン州郷土博物館から2名の研究者を招聘し、道内の博物館での古生物展示についてと、戦前の樺太で活動した画家木村捷司の作品および人物像、道内のサハリン先住民の関係資料に関して共同調査を実施しました。(エヴゲニヤ フィルソワ・アレクサンドル ベルチャンキンを招聘、7月17日～31日)
国内調査	鳥取市、平取町、千歳市、札幌市ほかにおいて、漂着貝類、アイヌ民族と環境に関する博物館展示などについて、野外での標本採集、聞き取り調査、図書館等での資料調査などを実施しました。

資料の収集と保存 Collection, Preservation of Materials

北海道民から寄せられた「北海道の歴史的文化遺産」である資料は、北海道の自然や歴史・文化を考えるうえで欠くことができない基礎資料です。当館では、資料の収集から受入・登録、保存管理から利活用までを、学芸部資料情報課のもとで一元的にあつめています。また、資料を良好な状態で後世に伝えるため、収蔵庫の環境整備に努めています。

資料の収集

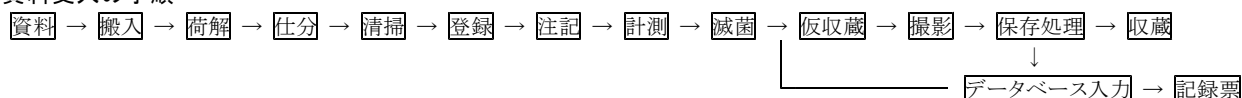
当館の資料収集は、昭和41年からスタートした北海道百年記念事業のなかで、昭和43年～45年の3ヵ年、開拓記念館開設準備のひとつとして着手されました。この時期の資料収集は、道内各地に委嘱した開拓記念館資料調査協力員166名から提供された情報と協力をもとに、嘱託の調査収集委員と準備事務所職員が当たりました。この時期に収集された資料のうち、昭和46年4月の開館までに整理・受入された資料は約15,000件でした。これらの資料が開拓記念館開設の基礎となり、このうちの約3,000点が常設展示に供されました。開館後の資料収集は、学芸部資料収集課(現資料情報課)を中心に学芸職員によって進められています。資料収集のための情報は、道民による日常的な電話連絡がほとんどで、寄贈による資料収集が大部分を占めているところが、当館収蔵資料の特徴となっています。

2013年度の資料収集

資料情報件数	47件	調査収集件数	17件
おもな収集地	札幌市、江別市、士別市、石狩市、旭川市、小樽市、根室市、余市町、池田町		
おもな収集資料	会津藩時代の文書北海道移住後開拓使奉職中の文書、釧路町に入殖した移住者が本州から持参した古文書、アンモナイト		

資料の受入・登録

資料受入の手順



収集した資料は、受入手順に従って収蔵庫に収納し保存されます。図書、文献等の各種情報資料も計画的に収集し、館外の利用者にも情報を提供しています。また、資料の一部は当館のホームページでも公開しています。

当館の収蔵資料には登録番号が付され、「記念館資料分類表」にもとづき、総集、記録、地学、生物、考古、民族、生活、産業、文書、美術に10分類されます。受入後、全分野共通の資料台帳に登録されます。

2013年度分類別・受入区分別件数

分類	保管替	購入	寄贈	製作	採集	寄託	2013年度	総件数
総集			0		0		0	3,177
記録			8		60		68	7,580
地史			17		0		17	7,071
生物			0		1		1	6,863
考古			0		0		0	1,701
民族			15		1		16	5,638
生活			32		0		32	35,983
産業			7		1		8	20,933
文書			12		4		16	76,303
美術			26		0		26	739
合計	0	0	117	0	67	0	184	165,988

資料の収蔵と保存管理

受入・登録された資料は清掃され、一般収蔵庫や恒温恒湿収蔵庫など分野別・形態別に割当てた4室の収蔵庫に収蔵されます。そして、大型資料は木製棚に、小型資料は木・紙・プラスチック製の整理箱等に納め、スチール棚に配架されます。収納棚等は資料の性質、形態に合わせ出納が容易に行なわれるように配慮しています。収蔵庫内の温度を夏期25℃・冬季22℃、湿度を55±5%に保持するほか、資料の補修、CO₂バッグによる資料の殺虫処理(年2～3回程度実施)など保存対策に努めています。また、年に1回は収蔵庫の大清掃を実施しています。

そのほか、収蔵環境等に関する会議を毎月行ない、収蔵庫の温湿度管理・点検、収蔵庫の清掃、捕虫トラップの回収・設置・調査、落下菌による環境調査などを日常的に実施しています。



資料情報の管理

収蔵された資料は、1点ごとに写真を撮影し、諸情報を記載した資料記録票を作成し、データベースに入力します。

資料記録票には、その資料の年代、地域、形状、由来などの基礎的情報が記入されます。この資料記録票に記入されることがらは、個々の資料がもつ第一次情報となり、博物館施設としての当館の諸活動の原点となるものです。

当館の写真業務には、資料および館行事等の撮影、写真資料の整理・保存等があり、近年では、デジタルカメラでの撮影、撮影フィルムのデジタル処理なども実施しています。撮影された写真は、資料記録票への貼付のほか、館出版物への掲載など館内での利用のほか、他機関への貸出等、情報サービスの面でも活用されています。

作成された資料記録票は、収蔵番号順にカード室に収められます。また、その内容を資料データベース(歴史文化情報システム)に入力し、データの追加、保存と利活用を行なっています。

また、館資料を正確迅速に検索し、他機関、一般利用者、研究者の便宜をはかるとともに、館の教育普及あるいは情報サービスのために収蔵資料目録等を作成しています。

資料の活用

館資料は常設展・特別展などに展示されるほか、博物館関係者や一般利用者、研究者等の調査・研究を目的とした利用(特別観覧)にも供されます。また、博物館や学校等の他機関への資料の貸し出しや、館資料の写真や複写等の印刷物やホームページ等への利用の受け付け(模写品等使用)も行なわれています。

2013年度利用件数

	資料の貸出		特別観覧		模写品等使用(開拓記念館)		模写品等使用(開拓の村)	
	利用件数	資料点数	利用件数	資料点数	利用件数	資料点数	利用件数	資料点数
博物館関係*	27	602	20	2,518	28	348	3	8
報道機関	0	0	5	20	8	10	14	70
官公庁	5	88	3	32	0	0	1	1
出版社	0	0	1	10	31	68	13	34
その他	3	57	23	239	13	15	51	208
計	35	747	52	2,819	80	441	82	321

※教育委員会・学校含む

図書の収集・管理・利用 — 情報サービス室の活動

情報サービス室では、当館刊行物のほか、職員が研究に用いる図書資料の収集・保管を行なっています。資料の多くは道内外の博物館、大学などの機関や、個人からの寄贈により収集したもので、書店では流通しない貴重な図書資料も多くあります。これらの図書資料は、情報サービス室内の閲覧スペースで、一般の来館者にも利用していただいています。また北海道の歴史や文化、自然に関する文献や博物館出版物に関する問い合わせ(電話・来館・手紙)にも対応しています。

2013年度図書資料受入点数

	2013年度	累計
単行本図書	712	32,775
雑誌	880	50,550
博物館関係出版物	1,322	48,190
計	2,914	131,515

開拓の村歴史建造物の保存管理と補修

昭和58年(1983)4月に開村した野外博物館・北海道開拓の村の歴史建造物の復元、および内部展示の作成は、当館の職員を中心にすすめられてきました。そのため、建物や展示の保存管理は当館の重要な業務となっています。

歴史建造物の保存にあたっては、その文化財的価値を損なわないように極力当初からの材料を生かし、修理は限定的に行なうことが原則であり、この方針の元に屋根や外壁などを中心に毎年数棟づつの修復工事を実施しています。しかし、野外展示であると当時に寒冷多雪地域であるという条件から、復元建造物の保存条件としては必ずしも条件がよいとは言えない環境であることから、加速度的に腐朽劣化が進んでおり、この事への対応が大きな課題となっています。

2013年度開拓の村整備事業

復元建造物老朽度調査業務	開拓の村建造物旧小川家酪農畜舎補修調査実施設計(2013年7月12日～10月31日)
展示建造物補修工事	①開拓の村建造物旧菊田家住宅・旧平造材部飯場補修工事(2013年10月1日～10月8日)
	②開拓の村建造物旧札幌農学校寄宿舎(恵迪寮)補修工事(2013年11月15日～11月21日)
	③開拓の村建造物旧小川家酪農畜舎雪捨用棧橋設置工事(2013年12月14日～27日)

展 示 Exhibition Programs

当館の展示活動は、常設展示室、特別展示室、収蔵陳列室、体験学習室の4カ所で行なわれています。各展示室は、それぞれの機能を果たしながらも互いに有機的に結びついており、来館者の要望にも積極的に対応できるようになっています。展示場や展示資料の保守点検・管理は日常的に実施しており、年に1回、2日間にわたって大掃除を行なっています。また、期間を限って、特別展やテーマ展などの企画展示を年に数回開催しています。

※各室の概要は本要覧9～11頁をご参照ください。

リニューアル予告展示会

北海道開拓記念館は、平成27年(2015)春に「北海道博物館」としてリニューアルします。あわせて北海道立アイヌ民族文化研究センターと統合し、アイヌ文化の展示や調査研究をより充実させていきます。展示会では、北海道博物館の目指す姿やこれからの活動について広く道民に紹介することを目的に、新しい常設展示の概要がわかる写真パネルや主要展示資料などを展示して、北海道の歴史・文化のエッセンスを紹介しました。巡回展の関連普及事業では、学芸員による子ども向け体験学習講座や一般向けの専門的な講座を開催して、道民が楽しみながら学習できる機会を提供しました。

1 北海道開拓記念館での展示会

名 称	リニューアル予告展示会「北海道開拓記念館から北海道博物館へ」		
会期(開催日数)	2013年4月27日(土)～5月12日(日)(14日間)		
観 覧 者 数	2,296人	シナリオチーム	常設展示改修シナリオチーム
関 連 普 及 事 業	ギャラリートーク		

2 巡回展

名 称	リニューアル予告展示会「北海道開拓記念館から北海道博物館へ」		
会期(開催日数)	2013年9月～2014年2月(計114日間)		
観 覧 者 数	3,004人	シナリオチーム	常設展示改修シナリオチーム
巡 回 展 会 場	苫前町郷土資料館・考古資料館	2013年9月7日～23日(15日間)	
	小平町文化交流センター	2013年10月1日～25日(25日間)	
	礼文町郷土資料館	2013年11月2日～17日(14日間)	
	名寄市北国博物館	2013年11月29日～12月15日(15日間)	
	士別市生涯学習情報センターいぶき	2013年12月25日～2014年1月22日(23日間)	
	枝幸町オホーツクミュージアムえさし	2014年2月1日～28日(22日間)	
関 連 普 及 事 業	一般向け講座「はじめての古文書」(苫前町)		
	一般向け講座「おびらの遺跡」(小平町)		
	一般向け講座「語り合いましょう! 昭和のくらしの道具」(礼文町)		
	一般向け講座「アイヌ語と口承文芸の世界ー北海道東部を中心にー」(名寄市)		
	一般向け講座「北海道林業を支えた技術と道具」(士別市)		
	一般向け講座「北の土偶を考える」(枝幸町)		
	子ども体験講座「文字であそぼう♪ 消しゴムハンコづくり」(苫前町)		
	子ども体験講座「勾玉づくり」(小平町)		
	子ども体験講座子ども体験講座「体験しよう! 昭和のくらしの道具」(礼文町)		
	子ども体験講座「アイヌ民族の狩りとわな」(名寄市)		
	子ども体験講座「ガリ版でいんさつ屋さん」(士別市)		
	子ども体験講座「土偶づくり」(枝幸町)		

北海道庁旧本庁舎(赤れんが庁舎)「北海道の歴史ギャラリー」

平成13年(2001)6月にオープンした「北海道の歴史ギャラリー」は、北海道開拓記念館が収蔵する資料を広く公開することと赤れんが庁舎の有効活用を図ることを目的としています。常設展示のほか、一部を「トピック展示コーナー」とし、年2回展示替えを行なっています。観覧者数:408,542人(2013年4月～2014年3月累計)

2013年度のトピック展示(2回)

名 称	SAPPRO'72ーオリンピックと札幌ー		
会 期	2012年6月1日～2013年5月31日	展示担当	山際晶子
内 容	「SAPPRO」の名を世界に広めた札幌オリンピックの開催から40年。この展示会では当館が所蔵する記念品やポスターなどを展示し、期待に胸膨らませた人びとの思いを振り返りました。		
名 称	野幌にもいた! ナウマンゾウとマンモスゾウ		
会 期	2013年6月1日～2014年3月31日	展示担当	添田雄二、圓谷昂史
内 容	第5次北方文化研究事業「北方地域の人と環境の関係史についての研究」の成果として、かつて野幌丘陵には、ナウマンゾウとマンモスゾウが生息していたことが明らかとなりました。これまで、これらの化石が両方発見されているのは幕別町忠類だけであったが、これで国内2例目となり、さらにその生息年代が、北海道の象化石研究を進める上で重要な意義をもたらしました。この展示会では、これらの研究成果について実物化石を通して紹介しました。		

THE HISTORICAL MUSEUM OF HOKKAIDO
リニューアル予告展示会



特別展開催一覧

回 数	名 称	期 間	日数	入場者数
第1回	北海道百年記念事業展	1971(昭和46)年4月15日～6月30日	77	
第2回	北の生活展	1971(昭和46)年8月1日～8月30日	26	18,439
第3回	アンモナイト展	1971(昭和46)年10月1日～10月30日	27	14,827
第4回	北方民族展	1972(昭和47)年1月20日～2月29日	38	7,111
第5回	北海道地図今昔展	1972(昭和47)年6月1日～6月30日	25	11,489
第6回	津軽海峡と青函トンネル展	1972(昭和47)年8月5日～9月24日	44	23,132
第7回	農業のあゆみ展	1972(昭和47)年10月10日～11月30日	45	5,194
第8回	屯田兵	1973(昭和48)年6月16日～8月20日	57	63,501
第9回	ニシン魚労	1973(昭和48)年9月11日～10月31日	43	30,359
第10回	サッポロあるがまま	1974(昭和49)年2月1日～3月31日	50	7,604
第11回	縄文文化	1974(昭和49)年6月15日～8月15日	53	59,554
第12回	炭鉱	1974(昭和49)年9月5日～10月27日	45	50,920
第13回	北海道やきもの展	1975(昭和50)年6月1日～7月13日	38	60,023
第14回	昭和20年	1975(昭和50)年8月15日～10月15日	53	70,333
第15回	ヒグマ	1976(昭和51)年7月20日～8月31日	37	54,517
第16回	山に生きる	1977(昭和52)年7月20日～8月31日	37	46,762
第17回	北海道に象がいたころ	1978(昭和53)年7月16日～8月27日	37	47,433
第18回	教科書と子どもたち	1979(昭和54)年7月21日～9月16日	50	56,849
第19回	北の職人	1980(昭和55)年7月1日～9月7日	50	64,134
第20回	雪と水と人間	1981(昭和56)年7月4日～9月6日	56	53,455
第21回	野幌丘陵	1982(昭和57)年7月4日～9月5日	58	48,730
第22回	暮末の北辺	1983(昭和58)年6月15日～7月15日	27	33,599
第23回	発掘された北の文化	1983(昭和58)年8月2日～10月2日	53	52,219
第24回	明治維新と北海道開拓	1984(昭和59)年6月1日～7月10日	34	38,525
第25回	アイヌの装い	1984(昭和59)年9月1日～11月30日	75	38,593
第26回	津軽こぎんと南部義士	1985(昭和60)年6月1日～7月21日	44	41,608
第27回	北海道一億年	1985(昭和60)年8月1日～9月29日	51	42,561
第28回	秋田の民俗	1986(昭和61)年5月1日～7月6日	58	61,817
第29回	離島	1986(昭和61)年7月20日～9月30日	62	33,890
第30回	日本海	1987(昭和62)年7月4日～8月31日	50	20,041
第31回	岩手の風土と伝統産業	1987(昭和62)年9月10日～11月8日	51	20,955
第32回	山形の民俗	1988(昭和63)年4月30日～6月30日	53	34,717
第33回	北欧・トナカイ遊牧民の工芸	1988(昭和63)年7月9日～9月18日	62	52,621
第34回	北への視角	1988(昭和63)年10月1日～12月4日	54	12,952
第35回	海を渡った武士団	1989(平成元)年5月2日～7月28日	76	57,930
第36回	集治監	1989(平成元)年9月1日～11月5日	57	45,182
第37回	北に生きた会津武士と農民	1990(平成2)年5月1日～8月5日	84	49,061
第38回	北方民族資料展	1990(平成2)年8月10日～11月4日	74	36,767
第39回	アルバータ州先住民族の文化	1993(平成5)年7月28日～9月23日	50	24,289
第40回	ロシア極東諸民族の歴史と文化	1994(平成6)年8月2日～9月20日	43	20,125
第41回	ライマンコレクション	1995(平成7)年8月29日～11月3日	60	24,840
第42回	山丹貿易と蝦夷錦	1996(平成8)年6月1日～7月28日	49	19,670
第43回	黒竜江省の恐竜化石と歴代文化物展	1996(平成8)年10月22日～12月8日	41	4,984
第44回	クピナガリュウからステラノカイギュウ	1997(平成9)年7月11日～8月31日	44	13,411
第45回	北の古代史をさぐる 療文文化	1997(平成9)年10月4日～11月30日	48	9,867
第46回	雪と寒さと文化	1998(平成10)年7月1日～8月30日	53	13,286
第47回	うるし文化	1998(平成10)年9月18日～11月3日	48	16,555
第48回	新弥生紀行-北の森から南の海へ-	1999(平成11)年5月19日～7月7日	50	14,637
第49回	恐竜とアンモナイトの世界	2000(平成12)年5月26日～8月13日	67	19,314
第50回	先史文化と木の利用-遺跡からのメッセージ	2000(平成12)年9月14日～11月5日	45	17,330
第51回	ヤマがあゆんだ近代-炭鉱遺産とこれから-	2001(平成13)年6月15日～8月15日	52	11,703
第52回	知られざる中世の北海道-チャシと館の謎にせまる-	2001(平成13)年9月7日～11月4日	50	16,277
第53回	海を渡ったアイヌの工芸-英国人医師マンローのコレクションから-	2002(平成14)年4月26日～6月9日	39	14,552
第54回	描かれた北海道-18・19世紀の絵画が伝えた北のイメージ-	2002(平成14)年7月12日～8月27日	39	7,300
第55回	洞窟遺跡を残した縄文の人びと	2002(平成14)年9月13日～11月3日	44	16,680
第56回	北・貝・道-海と陸の人びと-	2003(平成15)年6月27日～8月27日	37	7,873
第57回	北海道の基層文化をさぐる-北から南から-	2003(平成15)年9月13日～11月3日	45	16,152
第58回	松浦武四郎 時代と人びと	2004(平成16)年4月28日～6月13日	41	6,708
第59回	北海道の民俗芸能-舞う・囃す・競う-	2004(平成16)年8月27日～11月3日	59	20,286
第60回	ロシア民族学博物館アイヌ資料展-ロシアが見た島国の人びと	2005(平成17)年年4月22日～6月19日	51	8,601
第61回	HORSE-北海道の馬文化-	2006(平成18)年4月28日～6月25日	51	7,582
第62回	北の縄文-美の世界-	2006(平成18)年10月27日～12月3日	32	3,351
第63回	鯨	2007(平成19)年7月20日～10月8日	70	17,740
第64回	古代北方世界に生きた人々-交流と交易-	2008(平成20)年9月12日～11月3日	46	13,808
第65回	北海道化石展!	2009(平成21)年7月3日～10月4日	79	17,126
第66回	どんぐりコロコロ	2010(平成22)年8月6日～11月3日	77	19,537
第67回	伊勢神宮と北海道	2011(平成23)年6月3日～7月10日	33	4,506
第68回	千島・樺太・北海道 アイヌのくらし-ドイツコレクションを中心に-	2011(平成23)年8月5日～9月25日	45	12,933
	北の土偶 縄文の祈りと心	2011(平成23)年3月6日～5月13日	61	38,831
第69回	アンモナイト展	2012(平成24)年7月3日～10月8日	81	20,533

教育普及 Education and Public Programs

当館の教育普及活動は、館の調査研究の成果に基づき、北海道の自然や歴史・文化に関する理解を深めることを目的としています。展示室内での解説をはじめ、体験学習室における学習活動、団体利用者へのオリエンテーションやサービス講座、館内外での講演会・講座・観察会などの各種一般普及行事、教職員の研修等への協力、博物館実習生・インターンシップの受け入れなど、展示および資料の公開を除く広い範囲の活動がおこなわれています。

解説活動

当館では、欧米の博物館における普及教師やボランティアの活動を参考に、開館以来常設展示室に解説員を常時配置し、来館者の質問などに随時対応するサービスを提供しています。解説員による解説活動は、来館者の年齢や人数などの状態に応じて解説時間や内容に変化を持たせることができ、また、来館者とじかに接して来館者と博物館をつなぐ役割を果たしています。また、来館者の要望に合わせ、常設展示室を解説しながら一巡する「通覧解説」、展示室の一部のテーマについて解説する「テーマ解説」なども行なっています。解説員の業務内容は、展示解説のほか、一般来館者、団体利用者、身体障がい者の案内や誘導、展示資料の監視、事故・けが防止のための介添えなど多岐にわたっています。

解説員による展示解説のほかに、案内パンフレットや展示解説書、外国語による解説シート、音声解説器(iPod)なども用意しており、来館者の多様なニーズにも対応しています。また、年8日間ある祝日開館日には、学芸員による展示ガイドを実施しています。

2013年度の解説活動

通 覧 解 説	423件	2,507名
テ ー マ 解 説	49件	177名
音声解説器の貸出	212件	

2013年度の学芸員の祝日展示ガイド(8件)

開催日	解説テーマ	担当	参加者数
4月29日	新選組永倉新八の資料、大公開中!	三浦泰之	15名
5月3日	アイヌの住居(チセ)と神さまの話	出利葉浩司	27名
5月4日	ニシン釜のナゾにせまる!	会田理人	11名
5月5日	クジラのヒミツにせまる!	水島末紀	20名
9月16日	この常設展示も見納めです...	池田貴夫	4名
9月23日	ヒグマと北海道の生き物の話	堀繁久	8名
10月14日	「満州」と「朝鮮」から戦争を見てみよう	寺林伸明	2名
11月3日	うるし文化と北海道	小林幸雄	4名

体験学習活動

体験学習室は、常設展示室で学んだことをさらに深めたいという観覧者のために設置されたもので、実際にモノにふれたり使ったりしながら学ぶことができます。ホームパン、わら細工、昔の遊びなどについては常時体験できるほか、期間とテーマを定めて年間数回の体験学習行事を企画・実施しています。体験学習室には解説員が配置され、来館者の希望に応じて道具の使い方や技術のレクチャーを行なっています。

2013年度の体験学習行事(4件)

開催期間	行事名称	担当学芸員	担当解説員	参加者数(入室者数)
4月3日～6月2日	縄文時代のくらし	右代啓視・鈴木琢也	青木朱美・越田雅子・福島奈緒子	1,172名(1,620名)
6月5日～8月18日	アイヌ民族のくらしー遊んで 学んで 働いてー	出利葉浩司	工津尋美・今村ゆみ子・折館里佳	2,678名(3,333名)
8月21日～11月3日	こども日記ー昭和のはじめのくらしをのぞこうー	舟山直治・池田貴夫	山田日登美・辻幸恵・浅井雅世	6,447名(7,245名)
11月9日～3月30日	体験ひろば in 開拓の村		麻生典子・斉藤智子・埤見裕子・川村昌江	951名(3,663名)

オリエンテーション・サービス講座

団体利用者に対しては、オリエンテーションとサービス講座を実施しています。

オリエンテーションは、学芸員による10～15分程度の解説活動で、①館の概要(設立経過や役割・事業概要)、②常設展示の内容(みどころ)の紹介、を中心とした内容で実施しています。小・中学校の社会科見学や高校の修学旅行でも利用されています。

サービス講座は、学芸員が団体の要望に応じてさまざまなテーマで30～60分程度講話するもので、グループや各種団体の学習活動を支援する目的で開設しています。利用している団体は、オリエンテーションと同様に小・中学校、高校の学校団体が中心ですが、大学や諸団体の研修や社会福祉団体の見学などにも利用されています。

2013年度利用件数・利用者数

		小 学 校	中 学 校	高 校	大 学	社会福祉団体	その他団体	合 計
オリエンテーション	利用件数	28 (0)	4 (0)	3 (1)	1 (1)	0 (0)	3 (0)	39 (2)
	利用者数	1,864	218	193	94	0	87	2,456
サ ー ビ ス 講 座	利用件数	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (2)
	利用者数	0	0	208	0	0	45	253

※()内は、利用件数全体の内、本州の団体件数を示しています。

※利用者数には引率の人数も含んでいます。

※2013年度はリニューアル準備のため「サービス講座」の実施を一部休止しました。

一般普及行事

当館では、教育普及活動の一環として、あらかじめ日時を定めてさまざまなテーマ、形態の普及行事を開催しています。その内容は、専門的なテーマで館職員や館外の研究者・専門家が講師となり実施する講演会・講座、昔の人びとの暮らしや伝統的な生産技術などを実際に体験しながら学ぶ参加体験型講座、野幌森林公園内で実施する観察会、夏休みなどに行なう特別企画、などがあります。

2013年度の一般普及行事（12件）

開催日	種類	名称	講師・案内人	参加者数
4月20日	観察会	森でさがそう① エゾアカガエルの歌声をきこう♪ (自然ふれあい交流館と共催)	堀繁久・水島未記、 濱本真琴・扇谷真知子(自然ふれあい交流館)	13名
5月19日	歴史講座	利尻島のアヲビ増殖大作戦	会田理人	41名
6月9日・23日	考古学講座	縄文土器をつくる(全2回) ①つくる ②焼く ※①6月9日、②6月23日に実施(各回参加者数:①43名、②40名)	右代啓視・鈴木琢也	83名
7月6日～9月8日	特別企画	発見! 体験! スタンプラリー! 夏休み探検隊♪ (参加施設:北海道開拓記念館、北海道開拓の村、自然ふれあい交流館、北海道立図書館、北海道立埋蔵文化財センター)		2,181部
7月7日	考古学講座	石器をつくる	本吉春雄氏(湧別川流域史研究会)、右代啓視・鈴木琢也	38名
8月10日	観察会	森でさがそう② 草原の王者! トノサマバッタをさがそう! (自然ふれあい交流館と共催)	堀繁久・水島未記、 濱本真琴・扇谷真知子(自然ふれあい交流館)	73名
8月11日	歴史講座	会流薩のカラフト警備	東俊佑	130名
9月8日	歴史講座・映画上映会	戦前・戦後における北海道の記録映画	三浦泰之・会田理人	121名
9月29日	歴史講座	歴史のなかの「開道百年」	山田伸二	93名
10月19日	公開講演会	考古学が構築する二つの島の世界ー日英での考古遺産の活かし方ー (北海道大学アイヌ・先住民研究センターとの共催)	クリス・ゴスデン氏 (オックスフォード大学考古学研究所)	41名
10月20日	歴史講座	ある津軽人が記した幕末の松前・蝦夷地情報	三浦泰之	126名
11月3日	文化の日フォーラム	北海道開拓記念館から北海道博物館へ	石森秀三・出利業浩司・水島未記・池田貴夫、 小川正人氏(北海道立アイヌ民族文化研究センター)	106名

土曜こども講座

平成14年度からの学校5日制の完全実施にともない、休日となった土曜日に、小学生を対象とした体験中心の講座を開催しています。館の収蔵資料や、実際に触って使える教材を活用し、ものづくりなどの体験をとおして、北海道の歴史や文化・自然について楽しく学べるような内容で実施しています。近年では、学校では得られない、博物館ならではの自主的な学習の場として定着しています。

2013年度の土曜こども講座(5件)

開催日	回数	名称	講師	参加者数
7月27日	第1回	のこぎりでコースターをつくろう♪	青柳かつら・山際秀紀	9名
8月17日	第2回	ガリ版でいんさつ屋さん	会田理人	18名
9月14日	第3回	みんなでつくろう葉脈(ようみやく)標本!	杉山智昭	10名
10月26日	第4回	文字で遊ぼう♪消しゴムはんこづくり	山際晶子・三浦泰之・水島未記	27名

※2013度はリニューアル準備のため、開催回数を減らしています。

教職員の研修等への協力

教育委員会などによる教員の研修や、教育研究会など教員団体・学校等による自主的な研修活動について、レクチャーや体験学習方法の指導などで協力しています。

※2013年度はリニューアル準備のため、実施しておりません。

博物館実習・インターンシップ等

毎年3回、各約2週間(実質8日間)の期間で博物館実習(館務実習)を受け入れているほか、各大学の博物館実習の中での見学実習も随時受け入れています。このほか、業務体験を中心としたインターンシップなども受け入れています。

※2013年度はリニューアル準備のため、実施しておりません。

連携・ネットワーク Outreach Activities

当館は、北海道内の中核的な博物館として、道内の博物館や資料館などとの連携をととして、北海道の自然や歴史的文化遺産の活用を実践するためのネットワークづくりを試みてきました。また近年は、地域や学校教育などさまざまな団体と連携して、広く社会へ貢献する事業や活動を展開しています。

博物館ネットワーク ー北海道博物館協会

当館の博物館ネットワークづくりは、北海道博物館協会、公益財団法人日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会との連携によりすすめられています。

昭和36年(1961)に発足した北海道博物館協会は、加盟館園数100をこえる道内博物館の中核ネットワークであり、博物館大会、ミュージアムマネジメント研修会の開催、各種刊行物の発行などの事業を展開し、北海道内の博物館活動の推進に大きく寄与しています。当館は、昭和46年(1971)の開館以来、同協会の事務局等を当館職員が兼職する形で、協会運営に積極的に携わってきました。

また、博物館の全国組織である公益財団法人日本博物館協会、歴史・民俗系博物館ネットワークの全国組織である全国歴史民俗系博物館協議会とも緊密に連携し、全国と道内博物館をつなぐ中継館としての役割を担っています。

2013年度博物館協会への職員の委嘱(兼職)

財団法人日本博物館協会理事	石森秀三
財団法人日本博物館協会北海道支部長	石森秀三
北海道博物館協会会長	石森秀三
北海道博物館協会理事	出利葉浩司
北海道博物館協会事務局長	舟山直治
北海道博物館協会事務局次長	右代啓視
北海道博物館協会事務局次長	堀繁久
北海道博物館協会事務局員	池田貴夫
北海道博物館協会事務局員	東俊佑

移動博物館

当館では、当館から遠隔地で博物館施設がない地域、あるいは博物館相当施設があっても企画展示会を開催することができない地域に対して、広く北海道の歴史や文化、自然を紹介することを目的に、移動博物館を開催しています。毎年、道内1～2カ所を選んで開催し、展示解説や講演会、体験コーナーなどのイベントも同時に開催しながら、普段目にするのできない資料を鑑賞していただいています。

※2010年度以降、開催を中止しています。

公開講座

分野別研究などの研究活動やその成果を館外で広く紹介する事業で、年に数回道内の各地域で開催しています。

※2010年度以降、開催を中止しています。

周辺施設とのネットワーク ーかるちやるnet

平成22年(2010)2月、野幌森林公園周辺の札幌市厚別区と江別市の文化施設が集まり、相互の協力・連携を密にするための協議会として「かるちやるnet」(文化施設連絡協議会)が発足しました。参加施設は、北海道開拓記念館(事務局)、北海道開拓の村、自然ふれあい交流館、道立自然公園野幌森林公園、北海道立埋蔵文化財センター、北海道立図書館、北海道立教育研究所、江別市郷土資料館、江別市セラミックアートセンター、札幌市青少年科学館、サンピアザ水族館の計11施設におよび、各施設の広報・PR活動や体験イベントなどを共同で開催しています。事業の実施に際しては、各施設における活動に加え、平成21年(2009)12月に北海道とイオン北海道(株)の間で締結された包括連携協定(道の教育・文化施設の広報活動への協力・協働事業の実施)を活用し、より広い層へのPRをおこなっています。

2013年度実施事業

1 「かるちやるnet」紹介パネル展の実施
・日時:2013年9月29日(日) 10:00～21:00
・場所:サンピアザ光の広場(札幌市厚別区厚別中央2条5丁目)
・内容:各構成施設の活動内容について、写真パネル等で紹介するとともに、リーフレットや近日開催予定の共通イベントチラシ類を配布し重点的な広報を行った。また、宇宙空間シミュレーションや大型・仕掛け絵本、かに釣り、紙漉体験などの体験・展示、ワークショップの運営を行った。
2 「かるちやるnet」共通ポスター、共通イベントチラシの作成
3 商業施設におけるPR活動の実施
イオン平岡店、サンピアザ光の広場においてチラシラックを設置し、共通イベントチラシ、各施設リーフレットの配布を実施した。
4 イベント会場におけるPR活動
サイエンスパーク会場において共通イベントチラシを配布した。
5 「かるちやるnet」ホームページの充実

サイエンスパークへの出展

豊かな北海道の未来を創る科学技術の振興を図ることを目的に、北海道・地方独立行政法人北海道総合研究機構では、「サイエンスパーク」を毎年開催し、子どもたちが科学技術を身近に体験し学ぶ機会を提供しています。当館では毎年この事業に参加・出展し、体験活動を通じた北海道の歴史・文化・自然に関する知識の普及や事業のPR活動を行なっています。

2013年度実施事業

日 時	2013年8月7日 10:00～16:00
場 所	札幌駅地下歩行空間
内 容	展示コーナーにて「予告展『北海道博物館』誕生へ!」を実施し、北海道博物館開設に向けての予告パネル展示、体験事業「アイヌの楽器ムックリを鳴らそう」を行ないました。

カルチャーナイトへの参加 2013年7月19日北海道庁旧本庁舎(赤れんが庁舎)で開催

札幌市内の文化施設を夜間開放し、市民が地域の文化を楽しむイベント「カルチャーナイト2011」(主催:カルチャーナイト実行委員会事務局)に参加しています。北海道の歴史・文化・自然に親しんでもらうことを目的に、赤れんが庁舎内「北海道の歴史ギャラリー」の夜間開放と解説活動を実施し、特別展や事業のPRを行なっています。

地域住民との連携 ―ミュージアムメイト

来館者により良く利用していただくために、さまざまなアイデアや意見をお寄せいただくことを目的として、平成17年(2005)1月から「ミュージアムメイト」制度を開始しています。この制度は、道内在住の中学生以上で、博物館に関心があり、当館の事業に積極的に参加できる方にメイトを委嘱し、モニター的な役割とサポーター的な役割の両方を担っていただくものです。

これまでミュージアムメイトには、館の運営や事業に関するアンケート調査への協力、特別展・テーマ展や当館の活動・リニューアルをテーマとした意見交換会への参加、館の広報活動への協力などをお願いしてきました。また、メイトのなかから6名の「世話人」を選出し、その主導のもとで効率的な連絡体制を図るとともに、メイトの自主的な企画事業を立案できる環境を整備しています。

2013年度に実施した活動

- 1 広報活動**: 展示会や普及事業等のポスターやチラシ、行事案内を近隣の施設や近所の方がた、知り合いに配付し、積極的な宣伝活動に努めました。また、ホームページやブログ、ツイッターなどを活用したロコミ的な広報活動をおこないました。
- 2 当館事業への積極的な参加**: 常設展示や特別展・テーマ展の観覧、講演会・講座などの普及行事に積極的に参加し、アンケートなどを通じて、館の運営や事業に対するアイデアや意見を述べました。
- 3 ミュージアムカフェの運営**: 学芸職員とメイトの距離を身近なものに感じさせることを目的に、特定のテーマにもとづく気軽な発表と意見交換を行なうミュージアムカフェを実施しました。

回数	開催日	テーマ	発表者	参加者数
第1回	5月12日	北海道の民族	池田貴夫	16名
第2回	7月21日	地域と地域をつなぐ博物館の役割	舟山直治	16名
第3回	10月27日	さよなら開拓記念館	出利葉浩司	14名

4 意見交換会

「第五期ミュージアムメイト」や今後のメイトのあり方を議題に意見交換を行ないました。2014年3月2日開催。参加者16名。

5 北海道博物館友の会設立実行委員会主催事業への参加

平成25年度文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業「北海道の地域住民と博物館をつなぐミュージアム・エージェンツ(世話人)育成事業」(北海道博物館友の会設立実行委員会主催)の一環として実施されたミュージアムミーティング「博物館サポーターの役割を考える」(全3回)に出席し、北海道の地域住民の博物館活動への参画のあり方、友の会等博物館支援組織のあり方について意見交換を行ないました。

学校教育との連携 ―出前授業

学校教育との連携の一環事業として、平成11年度から「とびだせ開拓記念館」として、近隣の小学校を対象に、学芸員の学校等への出張派遣事業を開始しています。年に数回～十数回、各地の小中学校などに学芸員・解説員が出かけ、体験を中心とした授業を行なっています。小学校への総合学習の導入にともなって、その需要は増えており、近年では、石狩管内や千歳市などにもその対象がひろがっています。

※2013年度はリニューアル準備作業のため、対応を中止しました。

サタデー・テーリングへの協力

小学生が毎週土曜日に公共交通機関を利用して札幌市内の文化施設をめぐるスタンプラリー「サタデー・テーリング」に協力し、博物館の魅力を伝えるイベント紹介などを行なっています。

道民カレッジ連携講座の開催

当館で開催する一部の講座や講演会を道民カレッジ連携講座として開催し、利用者層の拡大を図っています。

各種委員等の委嘱(社会貢献)

2013年度職員の各種委員等の委嘱(19件)

委嘱者	委嘱委員名	委嘱機関名	委嘱期間
会田理人	別海町史跡旧奥行白駅通所保存管理計画策定委員	別海町教育委員会	2012年4月～2014年3月
池田貴夫	国立民族学博物館文化資源プロジェクト審査・審議	国立民族学博物館	2013年4月～2014年3月
右代啓視	江別市文化財保護委員会	江別市教育委員会	2012年8月～2014年7月
右代啓視	次世代型博物館計画検討委員会	札幌市	2012年11月～2014年3月
右代啓視	埋蔵文化財展示室更新検討委員会	札幌市	2012年4月～2014年3月
小林孝二	江別市文化財保護委員会	江別市教育委員会	2011年8月～2015年7月
小林孝二	小樽市の歴史と自然を生かしたまちづくり景観審議会	小樽市	2011年8月～2015年7月
小林孝二	「民族共生の象徴となる空間」における博物館の整備・運営に関する調査検討委員会 施設整備専門部会		2013年4月～2015年3月
小林孝二	日本建築学会北海道支部歴史意匠専門委員会	日本建築学会北海道支部	1980年6月～
出利葉浩司	「民族共生の象徴となる空間」における博物館の整備・運営に関する調査検討委員会 委員	文化庁	2013年4月～2015年3月
出利葉浩司	日本文化人類学会第25期評議員	日本文化人類学会	2012年4月～2014年3月
出利葉浩司	平成25年度アイヌの伝統的生活空間の再生事業検討会委員	(財)アイヌ文化振興・研究推進機構	2013年4月～2014年3月
出利葉浩司	平成25年度アイヌ文化賞等表彰者選考委員会 委員	(財)アイヌ文化振興・研究推進機構	2013年4月～2014年3月
出利葉浩司	北海道博物館協会理事	北海道博物館協会	2013年4月～2014年3月
堀繁久	野幌森林公園自然環境モニタリング検討委員	林野庁北海道森林管理局	2013年4月～2014年3月
堀繁久	北海道新幹線環境影響評価事後調査アドバイザー	鉄道建設・運輸施設整備支援機構北海道新幹線建設局	2013年4月～2014年3月
堀繁久	札幌啓成高校SSH(スーパーサイエンスハイスクール)運営指導委員	北海道立札幌啓成高校	2013年4月～2014年3月
堀繁久	JST「科学技術コミュニケーション推進事業-CISEネット構築・評価委員	北海道大学総合博物館	2013年4月～2014年3月
三浦泰之	石狩市文化財保護審議会委員	石狩市教育委員会	2014年5月～2016年4月

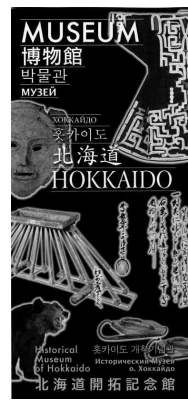
広 報 Public Relations

当館では、広く北海道民や社会に対し、当館の研究や事業、博物館活動を知っていただくため、マスメディアや印刷物、インターネットなどを活用した広報活動を行なっています。

広報用リーフレット、ポスター、チラシ等の作成と配布

館のリーフレットや行事のポスター・チラシなどを作成し、道内外の博物館、公共施設や観光案内所を中心に配布し、掲示や配置を依頼しています。また、ミュージアムメイト（23頁参照）に配布し、ロコミ的な広報活動も行なっています。当館では、宣伝・PR用に以下のような印刷物を作成しています。

- 広報用リーフレット**：施設紹介、交通案内を中心としたリーフレットで、当館の存在を知らない方や観光客などへのPRを目的に作成しています。
- リニューアル予告展示会ポスター・チラシ**：リニューアル予告展示会をPRするためのもので、当館職員がデザインし、印刷業者に発注して作成しています。
- 普及行事等ポスター・チラシ**：事業をPRするためのもので、テーマ展や講演会・講座、体験学習行事など、行事ごとに作成しています。当館職員がデザインし、館の印刷機（大型カラープリンター、リソグラフ等）で作成しています。



マスメディア等を通じた広報

各新聞社や放送局、地域の情報誌などに対し、事業の内容についての積極的な情報提供を行なっています。テレビやラジオへの出演、ミニコミ誌・雑誌への寄稿、新聞への寄稿・連載、取材協力なども行なっています。

2013年度ミニコミ誌・雑誌・新聞等への寄稿・協力一覧(14件)

寄稿・協力者	タイトル	出典	出版社	種類
池田貴夫・会田理人	「調べ学習」のコツは？	北海道新聞(4月21日朝刊)	北海道新聞社	協力
会田理人	樺太領有語る海底ケーブル	朝日新聞(8月17日朝刊)	毎日新聞北海道支社	協力
青柳かつら	町の自然や魅力を紹介 知恵の蔵おすすめマップを製作	道北日報(7月19日号日刊)	道北日報	
青柳かつら	お宝まだまだいっぱい 土別市朝日町でふるさと講話会	北都新聞(11月1日号日刊)	北都新聞	
青柳かつら	まちの魅力掘り下げ共有を あさひのお宝がテーマ	道北日報(11月1日号日刊)	道北日報	
青柳かつら	北海道の林業を学ぶ	北都新聞(14年1月21日号日刊)	北都新聞	
青柳かつら	森林ボランティアへの期待:「クマガラ」設立10周年に寄せて	もりびと 設立10周年記念誌	いしかり森林ボランティア「クマガラ」	
東俊佑	会津藩兵 アイヌと深い交流	読売新聞(12月11日朝刊)	読売新聞	協力
右代啓視	民間ならではの交流を続けたい	北海道新聞(5月31日朝刊)根室	北海道新聞社	協力
右代啓視	色丹西部にチャシ、住居跡-ビザなし交流学術訪問団が発見-	北海道新聞(6月4日朝刊)根室	北海道新聞社	協力
右代啓視	色丹島に遺跡4カ所発見	釧路新聞(6月4日)	釧路新聞社	協力
右代啓視	アイヌ集落跡地色丹島で発見	朝日新聞(6月4日)	朝日新聞社	協力
杉山智昭	マサチューセッツ州における文化財保存の現場をたずねて	HOMAS ニューズレター	北海道・マサチューセッツ協会	
三浦泰之	北海道へ“移住”してきた“古文書”が語ること	コラムリレー「北海道で残したいモノ、伝えたいモノ」第52回	北海道博物館協会学芸職員 部会HP	寄稿

広報誌『北海道開拓記念館だより』の作成と配布

講演会や講座などの各種普及行事、展示会の予告、館の動きなどの活動全般を定期的に発信することを目的に、年4回『北海道開拓記念館だより』を発行しています。道内外の博物館や教育機関、公共施設、研究機関などに送付しているほか、館内に配置して、来館者が自由に持ち帰ることができるようにしています。

2013度に発行した北海道開拓記念館だより

巻号	Vol.No.	発行年月日	内 容（ 執 筆 者 名 ）
219号	Vol.43 No.1	2013年 6月1日	●新館長よりのご挨拶「北海道の未来に向けて新しい博物館に求められるもの」(石森秀三) ●トピック展「野幌にもいた！ナウマンゾウとマンモスゾウ」(圓谷昂史) ●学芸員のこぼれ話「モノからわかる情報?ブラウつれづれ草」(山際秀紀) ●記念館分野別研究「蘇った！80年前の河川清掃映像」(三浦泰之) ●その名は解説員「機織り体験いかがですか?」(工津尋美)
220号	Vol.43 No.2	2013年 8月1日	●リニューアル予告展示会「北海道開拓記念館から北海道博物館へ」(青柳かつら) ●学芸員のこぼれ話「開拓の村の旧開拓使工業局庁舎が重要文化財建造物になります」(小林孝二) ●記念館分野別研究「モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近現代史」(池田貴夫) ●その名は解説員「今年も『石器をつくる』を行ないました」(越田雅子) ●司書のおすすめ本「民族衣装を着なかったアイヌー北の女たちから伝えられたこと」(櫻井万里子)
221号	Vol.43 No.3	2013年 10月1日	●文化の日フォーラム関連「開拓記念館のこれまでの活動を振り返って」(村上孝一) ●学芸員のこぼれ話「アオイガイを追って！」(圓谷昂史) ●北方文化共同研究「サハリンからお客さまを迎えました」(水島未記) ●その名は解説員「体験学習室行事の展示が変わりました」(山田日登美) ●司書のおすすめ本「札幌オリンピックが残したもの」(櫻井万里子)
222号	Vol.43 No.4	2014年 1月4日	●リニューアル関連「展示だけではありません！北海道開拓記念館は、どう変わるのでしょうか」(出利葉浩司) ●学芸員のこぼれ話「北千島の旧陸海軍工事と朝鮮人労働者について」(寺林伸明) ●記念館分野別研究「北方四島の先史文化研究と博物館交流の基礎づくり」(右代啓視・鈴木琢也) ●その名は解説員「体験ひろば開催中です！」(辻幸恵)

インターネットによる広報

館の事業や活動などさまざまな情報をリアルタイムで発信することを目的に、インターネットを活用した広報活動を行なっています。ホームページでは、館の概要、交通案内、展示案内、研究および成果の紹介、行事案内などの基本情報のほか、館収蔵資料約150,000件のなかの約14,000件についての資料情報検索データベースも公開しています。また、メールマガジン「みゅーじあむ」を毎月配信し、展示会、講演会などの最新情報を提供しています。

2013年度ホームページアクセス件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	月平均
件数	6,993	5,797	5,438	5,524	5,367	6,365	6,877	4,836	3,588	3,083	2,845	2,420	59,133	4,927

2013年度メールマガジン配信件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	月平均
件数		7,424	3,743	3,785	3,794	3,812	3,822	3,831	3,838	3,832		3,831	41,712	3,476

※月1回配属(ただし、5月は月2回配信。4月と2月は配信なし)

出版活動 Publication Activities

当館では、研究成果や博物館活動を社会に還元するため、さまざまな刊行物を作成しています。それらの出版物は、常設展示場の地下にある情報サービス室に配置するとともに、国立国会図書館、全国の都道府県立図書館、北海道内の公共図書館などに寄贈しており、お近くの図書館でもご覧いただくことができます。また、常設展示解説書、ガイドブック、特別展図録など、出版物の一部は館内のミュージアムショップにて販売もしております。(品切れのものも多数ございますので、お買い求めの際はお電話(011-898-0456)にてご確認ください)

これまでに出版した刊行物

刊行物名称	号数	刊行年
研究年報(23号から研究紀要と改題)	1～22号	1972～1994年
研究紀要	23～42号	1995～2014年
調査報告	1～49号	1972～2010年
研究報告	1～19号	1971～2006年
特別展目録	1～69号	1971～2012年
一括資料目録	1～40号	1970～2011年
収蔵資料分類目録	1～13号	1981～1993年
資料解説シリーズ	1～9号	1972～1987年
北海道博物館等ネットワーク事業報告	1～5号	1991～1995年
「北の歴史・文化交流研究事業」中間報告	1991・1992・1993・1994年度	1991～1994年
「北の歴史・文化交流研究事業」研究報告		1995年
「北の文化交流史研究事業」中間報告		1998年
「北の文化交流史研究事業」研究報告		2000年
「北方文化共同研究事業」2000～2002年度調査報告		2003年
18世紀以降の北海道とサハリン州・黒竜江省・アルバータ州における諸民族と文化 ー北方文化共同研究事業研究報告ー		2005年
北方の資源をめぐる先住者と移住者の近現代史 ー2005-07年度調査報告ー		2008年
北方の資源をめぐる先住者と移住者の近現代史 ー北方文化研究報告ー		2010年
北方地域の人と環境の関係史 ー2010-12年度調査報告ー		2013年
北海道開拓の村整備事業のあゆみ		1992年
常設展示改訂事業報告		1994年
常設展示解説書(旧展示)	テーマ1～6(6部)	1972～1978年
常設展示解説書(新展示)	テーマ1～7・8(7部)	1999～2001年
常設展示資料目録(旧展示)		1971・1972年
常設展示資料目録(新展示)		1998年
北海道開拓記念館だより	1～222号	1971～2014年
北海道開拓記念館総合案内	初版・改訂新版・改訂新版再版	1984・1993・1996年
新常設展示公開記念誌 ー常設展示案内ー		1992年
北海道開拓記念館ガイドブック(北海道の歴史を目でみるガイドブック)(A5版)		1986・1992・1995年
北海道開拓記念館ガイドブック(A5版)		1992年
北海道開拓記念館ガイドブック(B5版)(日英併記)	初版・全面改訂版	1986・1992・1995年
北海道開拓記念館利用の手引き		1998年
北海道開拓記念館10年のあゆみ		1981年
北海道開拓記念館30周年記念誌		2002年
テーマ展 リーフレット	1～99号+臨時(100部)	1975～1993年
テーマ展 豆本	1～58号	1994～2012年
移動博物館展示解説書	(19部)	1991～2009年
要 覧	1971～2013	1972～2013年

2013年度に出版した刊行物

- (1) 『北海道開拓記念館研究紀要』第42号 2014年3月 258頁
- (2) 『北海道開拓記念館だより』219～222号
- (3) 『北海道開拓記念館要覧 2013』 2013年7月31日 44頁

館長・学芸職員紹介 Introduction of Director-General, Curator and Assistant Curator

石 森 秀 三 ISHIMORI Shuzo

職 名	館 長		
	称 号	国立民族学博物館名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授	
専 門	博物館学・観光文明学	受 賞	1986年、大平正芳記念賞
略 歴	【職歴】京大大学人文科学研究所研究員（1971）、国立民族学博物館第四研究部助手（1975）、国立民族学博物館第四研究部助教授（1985）、国立民族学博物館第四研究部教授（1996）、総合研究大学院大学文化科学研究科教授（1996）、国立民族学博物館先端民族学研究部教授（1998）、国立民族学博物館民族社会研究部教授（2002）、国立民族学博物館博物館民族学研究部教授（2003）、国立民族学博物館文化資源研究センター長（2004）、国立民族学博物館名誉教授（2006）、北海道大学観光学高等研究センター長（2006）、北海道大学観光学高等研究センター特別招聘教授（2013）、北海道開拓記念館館長（2013） 【社会活動】観光立国懇談会委員（内閣府）、文化審議会文化財分科会専門委員（文化庁）、文化審議会企画調査会会長（文化庁）、国土審議会北海道開発分科会専門委員（国土交通省）、地域資源活用促進事業委員会委員長（経済産業省）等		
主な研究業績	2011；『エコツーリズムを学ぶ人のために』世界思想社（共編著） 2008；『大交流時代における観光創造』北海道大学（編著） 2000；『博物館経営・情報論』放送大学教育振興会（編著） 2000；『博物館資料論』放送大学教育振興会（編著） 1999；『南太平洋の文化遺産』千里文化財団（編著） 1999；『博物館概論：ミュージアムの多様な世界』放送大学教育振興会 1996；『観光の20世紀』ドメス出版（編著） 1985；『危機のコスモロジー：ミクロネシアの神々と人間』福武書店		

出利葉 浩 司 DERIHA Koji

職 名	学芸副館長兼学芸部長		
	学 位	学士、1978年（北海道大学文学部日本史学科）	
専 門	博物館民族学・北方地域民族学	所 属 学 会	日本文化人類学会（第26期評議員、2014-15年度北海道地区代表幹事）、American Anthropological Association、北海道民族学会
これまでの研究課題	(1)近世期の古文書類をもとに、当時のアイヌの人びとの活動、社会を復元すること。(2)近世末期アイヌの小型毛皮獣（キツネ・テン・カワウソ）狩猟活動について。(3)在欧米の博物館が所蔵するアイヌ民具の調査。(4)明治年間に北海道を訪れた外国人とアイヌの人びとの「出会い」、そこでおこった「できごと」について、外国人が残した日記やフィールドノート、書簡などにより復元すること。(5)人びとの「文化」を、博物館などの公共施設・空間において展示することの問題。		
主な研究業績	2011；「マンロー・テキストはなにを『返還』するのだろうか」『国立歴史民俗博物館研究報告』168集 2009；「フレデリック・スターが『選んだ？』アイヌ資料—セントルイス万国博覧会、その後」『北海道開拓記念館研究紀要』第37号 2009；「How can we Approach the Issue of Ainu Trap?」『Senri Ethnological Studies』72(3) 2007；「セントルイス万国博覧会で『展示』されたアイヌ衣服について」『北海道記念館研究紀要』35号 2005；「アルバータ州にある二つの博物館の先住民展示について」『北方文化共同研究事業研究報告』2005		
2014年度の研究課題	①明治年間に北海道で調査をおこなった外国人は、本国でどのように北海道を語ったのだろうか（継続的発展課題） ②博物館展示において、人と自然との関係はどのように展示されるのだろうか（北方文化共同研究事業課題） ③北海道開拓記念館が行なってきた民族学研究—なにを、どう研究し、どんな資料を集めてきたのだろうか（個別課題）		

村 上 孝 一 MURAKAMI Kouichi

職 名	事業部長		
	学 位	学士、1978年（北海道工業大学建築工学科）	
専 門	建築史・生活史	所 属 学 会	日本建築学会、日本民俗建築学会
これまでの研究課題	「野外博物館北海道開拓の村」の整備で、建造物の移築復原工事を担当し、各建造物の調査研究、及び北海道の近代建築史・住生活文化の研究を行ってきた。 また、ロシア共和国ウラジオストク地方の防御性集落や、サハリン州及び北海道のチャシの調査を行なっている。		
主な研究業績	2014；「北方四島の先史文化研究と博物館交流の基礎づくり(Ⅳ)」『北海道開拓記念館研究紀要』第42号(共著) 2013；「北方四島の先史文化研究と博物館交流の基礎づくり(Ⅲ)」『北海道開拓記念館研究紀要』第41号(共著) 2013；「厚沢部町から収集した神楽関係資料」『北海道開拓記念館研究紀要』第41号(共著) 2012；「モノをとらえてみた北海道における高度経済成長期前後の産業と生活の変化について—分野別研究『高度経済成長期』における道民生活の変化に関する基礎的研究」の経過報告—『北海道開拓記念館研究紀要』第40号(共著)		
2014年度の研究課題	①「モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近代史—世代間対話の場としての博物館づくりに向けて—」（北海道開拓記念館・分野別研究）		

学芸第一課

水 島 未 記 MIZUSHIMA Miki

		職 名	学芸部研究交流課長兼学芸第一課長
		学 位	修士、1993年（北海道大学大学院農学研究科農学専攻）
専 門	植物生態学、動植物と人との相互関係	所 属 学 会	日本生態学会、種生物学会、日本セトロロジー研究会
こ れ ま で の 研 究 課 題	①林床植物の生活史 ②蝦夷地・北海道に関わる博物画の分析 ③北方諸民族の植物利用 ④北海道における鯨類と人との関わり		
主 な 研 究 業 績	2010；「サハリン先住民の自然資源としての植物：利用植物一覧」『北方の資源をめぐる先住者と移住者の近現代史－北方文化共同研究報告－』 2007；「ニヴフ語の植物名称：東方言を中心に」『北海道開拓記念館研究紀要』35号（共著） 2005；「サハリン先住民の植物利用（ウイльтаを中心に）」『18世紀以降の北海道とサハリン州・黒竜江省・アルバータ州における諸民族と文化』（共著） 2004；「北海道南部に見られる鯨骨製記念物(3)」『北海道開拓記念館調査報告』第43号 2001；「『蝦夷草木図』写本の比較」『北海道開拓記念館研究紀要』第29号（共著）		
2014年度の 研 究 課 題	①林床植物の個体群生態学的調査と民族植物学への応用：オオウバユリの個体群調査 ②野幌森林公園地域の生物インベントリー調査（北海道開拓記念館・分野別研究課題） ③地域環境からみた動植物文化の再検討（北海道開拓記念館・北方文化共同研究事業） ④アムール下流域およびサハリンにおけるニヴフの植物資源利用と周辺環境		

右 代 啓 視 USHIRO Hiroshi

		職 名	学芸部主任学芸員兼学芸第一課学芸員
		学 位	博士（歴史学）、2011年（駒澤大学大学院）
専 門	考古学	所 属 学 会	日本第四紀学会、日本考古学協会、北方島文化研究会、北海道考古学会、チャン学会、北海道史研究協議会、北海道・東北史研究会
こ れ ま で の 研 究 課 題	①「先史時代における環境変化と文化形成に関わる研究」、②「オホーツク文化と擦文文化の研究」、③「北東アジアにおけるチャンと防御性集落の位置づけと形成過程」、④「続縄文時代の洞窟遺跡の成因とその文化」などの研究課題に加え、特別研究や海外学術交流研究事業、分野別研究を行ってきた。		
主 な 研 究 業 績	2011；「海洋資源の利用と古環境－貝塚からみたエゾアワビの捕獲史から－」『島と海と森の環境史』（日本列島の三万五千年－人と自然の環境史4）文一総合出版 2010；「オホーツク文化の堅穴住居構造」『比較考古学の新地平』同成社 2009；「北方世界における要害遺跡研究の視点」『物質文化史学論聚』北海道出版企画センター 2004；「北海道における防御性・環壕集落－北と南からの視点から－」『アイヌ文化の成立』北海道出版企画センター 2003；「フゴッペ洞窟の成因とその考古学的復元」『フゴッペ洞窟・岩面刻画の総合研究』中央公論美術出版社		
2014年度の 研 究 課 題	2014年度は、これまで進めてきている分野別研究と、文部科学省の科学研究費補助金を得て「千島列島における先史文化研究」を進め、内閣府、外務省と連携をし、歴史文化専門家として北方四島の先史文化、アイヌ文化の研究と、四島の博物館交流を実施する。		

堀 繁 久 HORI Shigehisa

		職 名	事業部主任学芸員兼教育振興課長兼学芸部学芸第一課学芸員
		学 位	学士、1985年（琉球大学理学部生物学科）
専 門	昆虫学、生態学	所 属 学 会	日本昆虫学会、日本昆虫分類学会、日本鞘翅学会、日本蛾類学会
こ れ ま で の 研 究 課 題	①日本および北海道周辺の昆虫相の解明とその変遷 ②野幌森林公園の生物インベントリーの解明		
主 な 研 究 業 績	2013；「野幌森林公園で確認されたアライグマによる在来両生類の捕食」『北海道爬虫両棲類研究報告』1（共著） 2011；「昆虫から見た北海道の生物多様性」『北海道の自然』48 2010；北海道開拓記念館第66回特別展「どんぐりコロコロ」シナリオチーフ 2006；「オサムシの眼をとおして自然環境をみる」『森と水辺の甲虫誌』 2006；『探そう！ほっかいどうの虫』北海道新聞社		
2014年度の 研 究 課 題	①野幌森林公園の生物インベントリーの解明 ②日本周辺の島嶼の昆虫相の解明 ③地表性甲虫群集を利用した環境調査手法の開発		

杉 山 智 昭 SUGIYAMA Tomoaki

		職 名	総務部サービス広報課長兼学芸部学芸第一課学芸員
		学 位	修士、1997年（弘前大学大学院理学研究科生物学専攻）
専 門	保存科学、分子生物学	所 属 学 会	文化財保存修復学会、日本文化財科学会、International Biodeterioration and Biodegradation Society (IBBS)
こ れ ま で の 研 究 課 題	①菌類・昆虫類による木質材料の生物劣化に関する研究 ②歴史的木造建築物の劣化調査 ③X線CTスキャナによるアイヌ文化財の劣化調査 ④糸状菌の分子生物学的研究		
主 な 研 究 業 績	2012；「Decay inspection of historical wooden architectures by genetic analysis」『Microbial Biodeterioration of cultural property』 2012；「分子生物学的手法を用いた歴史的木造建築物の生物劣化調査（その2）」『北海道開拓記念館研究紀要』第40号 2011；「北海道開拓記念館における資料管理の現場」『博物館研究』第46巻7号 2011；「分子生物学的手法を用いた歴史的木造建築物の生物劣化調査（その1）」『北海道開拓記念館研究紀要』第39号 2011；「博物館収蔵庫における環境清浄度調査」『北海道開拓記念館研究紀要』第39号		
2014年度 の 研 究 課 題	①アイヌ民族資料のX線CTによる現況調査および長期保存方針の策定に関する基礎的研究（科学研究費・基盤研究(C)・研究代表者） ②縄文文化の漆櫛の製作技術を復元するための研究（科学研究費・基盤研究(C)・研究分担者） ③博物館資料の保存環境と劣化対策に関する研究 ④歴史的木造建築物の劣化調査		

添 田 雄 二 SOEDA Yuji

		職 名	総務部サービス広報課兼学芸部学芸第一課学芸員
		学 位	博士（理学）、2011年（鹿児島大学）
専 門	第四紀、古環境復元	所 属 学 会	日本第四紀学会、日本珪藻学会、日本文化財科学会、日本環境教育学会
こ れ ま で の 研 究 課 題	①北方地域における環境変化と人とのかかわり（北海道開拓記念館・北方文化共同研究事業） ②北海道における小氷期最寒冷期の実態とアイヌ民族との関係（科学研究費助成事業・学術研究助成基金助成金・若手研究(B)・研究代表者）		
主 な 研 究 業 績	2013；北海道のゾウ化石とその研究の到達点．化石研究会会誌，45，44-54．（共著） 2012；地中に残された先史時代以降の巨大津波痕跡-北海道・東北地方の研究例-，北海道・東北史研究会，8，8-17． 2008；「1669年に起きたシャクシャインの戦いの遠因について」『日本文化財科学会講演要旨集』（学会ポスター発表賞、筆頭） 2004；「北海道東部太平洋沿岸域、史跡国泰寺跡および汐見川低地において認定された先史時代の巨大津波イベント」『地質学論集』58（筆頭） 2003；「北海道東部、厚岸町史跡国泰寺跡において認められた歴史および先史津波の痕跡」『日本地質学会講演要旨集』（優秀講演賞、筆頭）		
2014年度 の 研 究 課 題	①北方地域における環境変化と人とのかかわり（北海道開拓記念館・北方文化共同研究事業） ②北海道における小氷期最寒冷期の実態とアイヌ民族との関係		

鈴 木 琢 也 SUZUKI Takuya

		職 名	総務部企画調整課兼学芸部学芸第一課学芸員
		学 位	修士、2001年（福島大学大学院地域政策科学研究科）
専 門	考古学	所 属 学 会	日本考古学会、考古学研究会、北海道考古学会、北方島文化研究会、青森県考古学会
こ れ ま で の 研 究 課 題	①日本列島北部における古代交易ルートの基礎研究（科学研究費・若手研究(B)・研究代表者） ②日本列島北部における古代物流経済圏の成立に関する基礎研究（科学研究費・若手研究(B)・研究代表者） ③擦文文化にみる本州物流経済の考古学的基礎研究（科学研究費・若手研究(B)・研究代表者） ④北海道におけるチャシの形成・終焉とその背景に関する基礎研究（分野別研究・研究代表者）		
主 な 研 究 業 績	2012；「北海道における3～9世紀の土壙墓と末期古墳」『北方島文化研究』第10号、北海道出版企画センター 2011；「北海道における7～9世紀の土器の特性と器種組成様式」『北海道開拓記念館研究紀要』第39号 2011；「北日本における古代末期の交易ルート」榎森進・熊谷公男監修『古代中世の蝦夷世界』高志書院 2010；「古代北海道と東北地方の物流」小松正夫編『北方世界の考古学』すいれん舎 2006；「北日本における古代末期の北方交易－北方交易からみた平泉前史－」『歴史評論』No. 678		
2014年度 の 研 究 課 題	①古代日本列島北部地域における文化集団の移動に関する基礎研究（科学研究費・基盤研究(C)・研究代表者） ②千島列島における先史文化の考古学的基礎研究－特に北方四島を中心に－（科学研究費・基盤研究(B)・連携研究者） ③律令国家の北限支配からみた津軽海峡を挟む古代北方世界の実態的研究（科学研究費・基盤研究(B)・連携研究者） ④平泉研究の資料科学的再構築（科学研究費・基盤研究(B)・研究協力者） ⑤北方四島の先史文化研究と博物館交流の基礎づくり（分野別研究・研究分担者）		

圓 谷 昂 史 ENYA Takafumi

専 門	第四紀学・古生物学	職 名	学芸部資料情報課兼学芸第一課研究職員
		学 位	修士 2014 (北海道教育大学大学院理科教育専修)
		所 属 学 会	古生物学会、漂着物学会、日本貝類学会、日本理科教育学会
こ れ ま で の 研 究 課 題	①北海道積丹半島沿岸の打ち上げ貝類から見た生物多様性と海洋環境 ②北海道日本海の離島の漂着物から見た海洋生物多様性 ③新生代の貝類化石群集の研究 ―恵庭市西方の新第三系貝類化石群集の地質年代と古環境―		
主 な 研 究 業 績	2014;「北海道日本海沿岸の打ち上げ貝類から見た生物多様性と海洋環境」『北海道教育大学大学院修士論文』 筆頭 2013;「Mass strandings of the common paper nautilus Argonauta argo along the coast of Yoichi Bay, Hokkaido, in the autumn of 2012」『Journal of Japan Driftological Society』. Vol.11 共著 2013;「北海道苫小牧沿岸への暖流系岩礁性巻貝レイシガイの漂着」『漂着物学会誌』 第11巻 筆頭 2013;「苫小牧ふるさと海岸の漂着ゴミ2008-2012-とましんビーチコーミングの活動から-」『地学教育と科学運動』70号 共著 2012;「北海道余市町浜中海岸の打ち上げ貝類から見た季節変化と海洋環境」『漂着物学会誌』 第10巻 筆頭		
2014年度 の 研 究 課 題	①海岸漂着物を用いた環境教育と博物館でのアウトリーチ活動(学術研究助成基金助成金・若手研究(B)・研究代表者) ②貝類からみた北方地域における第四紀海洋環境の変遷(北海道開拓記念館・北方文化共同研究事業) ③火山の指導についての一考察-ジオパーク有珠山の教材化-		

小 林 幸 雄 KOBAYASHI Yukio

専 門	保存科学	職 名	学芸部研究交流課兼学芸第一課学芸員
		学 位	学士、1973年(北海道大学工学部金属工学科)
		所 属 学 会	日本文化財科学会、文化財保存修復学会、北海道・東北保存科学研究会
こ れ ま で の 研 究 課 題	歴史的文化遺産を保存し、継承するための研究：北海道の歴史的文化遺産として残された博物館資料について、i) 材質と技法、ii) 劣化現象・過程、iii) 保存対策などの諸課題を検討してきた。このことによって、北海道の歴史的文化遺産をより良く保存し、かつ長く未来に継承するための具体的方法論の確立に寄与する。		
主 な 研 究 業 績	2009;「縄文漆からみた北海道」『月刊考古学ジャーナル』11月増刊号 (No. 593)、(株)ニューサイエンス社 2008;「縄文文化の透かし模様入り漆櫛とその技術」『北海道開拓記念館研究紀要』第36号		
2014年度 の 研 究 課 題	北海道の「うるし文化」に関わる技術史的研究： ①先史文化の漆製品について、材質や技法などを技術史的な観点から検討し、“うるし”や“彩色”に関わる歴史や文化を明らかにする。 ②アイヌ文化における漆製品、とくに漆櫛について、形態分類の検討を行なってことで製作技術上の特徴を明らかにする。		

学芸第二課

山 際 秀 紀 YAMAGIWA Hideki

		職 名	学芸部資料情報課長兼学芸第二課長
		学 位	修士、1994年（大谷大学大学院文学研究科）
専 門	北海道産業史	所属学会	北海道産業考古学会
これまでの研究課題	「鯊漁場親方青山家資料の分析」、「職人の道具」、「馬をめぐる技術史・文化史的研究」、「「高度経済成長期」における道民生活に関する基礎的研究」など共同研究（特別研究・分野別研究など）の研究分担者として、北海道産業にかかわる技術史、文化史についての研究などを行ってきた。		
主な研究業績	2011；「北海道における水稻直播器の考案と使用方法に関する調査」『北海道産業考古学会会報 北の技術文化』第21号 2009；「ブラジル開拓で日本人移民が使用した農具について」『北海道産業考古学会会報 北の技術文化』第19号 2008；「紡績機械「ガラ紡」について－2006年度調査報告－」『北海道開拓記念館調査報告』第47号 2008；「北海道の鉄製農具について」『鉄－人と道具とその技術－研究Gr. 発足記念講演会予稿集』（社）日本鉄鋼協会 社会鉄鋼工学会「鉄の歴史－その技術と文化－」フォーラム		
2014年度の 研究課題	①近現代の北海道における農機具と産業関係用具に関する基礎研究 ②北海道の畑作農業と軽工業に関わる技術と機具の変遷について（北海道開拓記念館・分野別研究課題） ③北海道の畜力による洋式農具導入について（北海道開拓記念館・北方文化共同研究事業）		

舟 山 直 治 FUNAYAMA Naoji

		職 名	総務部主任学芸員兼学芸部学芸第二課学芸員
		学 位	学士、1982年（酪農学園大学酪農学部農業経済学科）
専 門	生活史	所属学会	日本民俗学会、西郊民俗談話会、北海道・東北史研究会、北海道地域文化学会
これまでの研究課題	①松前・蝦夷地および北海道移住者における生活様式の変遷過程に関する研究 ②全国各地から北海道に伝わった有形・無形の民俗の伝承とその活用についての調査研究 ③中国帰国者の親睦行事にみる民俗についての調査研究 ④北海道の民俗芸能に関する調査研究		
主な研究業績	2014；「神楽関係資料からみた移住者の祭神と神楽の伝承（一）」『北海道開拓記念館研究紀要』第42号 2013；「厚沢町から収集した神楽関係資料」『北海道開拓記念館研究紀要』第41号 2013；「神々の引揚げ－北方四島から北海道へ」『引揚者の戦後』叢書 戦争が生み出す社会Ⅱ、新曜社 2006；「北海道の民俗」『民俗学講義－生活文化へのアプローチ－』八千代出版 2006；「カモカモの形態と利用からみたアイヌ民族と和人の交易と物質文化」『アイヌ文化と北海道の中世社会』北海道出版企画センター		
2014年度の 研究課題	①移住にともなう環境変化と生活様式の変容過程－民間信仰と職人技術の伝承を中心に－（北海道開拓記念館北方文化共同研究事業・分担課題） ②モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近現代史－世代間対話の場としての博物館づくりに向けて－（北海道開拓記念館・分野別研究・研究分担者） ③西廻り航路を介して北海道に伝播した大祓の祭祀と伝承をめぐる諸問題の民俗学的研究（科学研究費補助金・基盤研究（C）・研究代表者） ④アイヌ漆器に関する歴史的研究－文献史学と考古学、民俗学、文化人類学の連携（科学研究費補助金・基盤研究（C）・連携研究者）		

池 田 貴 夫 IKEDA Takao

		職 名	総務部企画調整課長兼学芸部学芸第二課学芸員
		学 位	博士（学術）、2007年（名古屋大学）
専 門	民俗学、生活学	所属学会	美学芸術学会、北海道・東北史研究会、日本民具学会、日本民俗学会、日本生活学会
これまでの研究課題	①クマ祭りという「題材」の研究－文化観の形成をめぐる社会情報学－、②自然災害と民俗－奥尻島、有珠山、新十津川、島原半島、桜島、伊豆大島、徳島、山梨、奈良などをフィールドに－、③北海道と日本領樺太の民俗－節分豆の変化、「雪虫」の呼称、ロウソクもらい、板かるた、観楓会などをとおして－、④近代の民族移動とその後の移住民・先住民の地域文化活動－サハリン朝鮮民族、カナダ、ロシア、中国のウクライナ人、ロシアのナナイ、ウデヘ、ニヴフ、エヴェン、中国の赫哲、カナダ先住民などを対象に－		
主な研究業績	2013；『なにこれ!? 北海道学』北海道新聞社 2013；「災害と民具研究－北海道南西沖地震後の奥尻島の20年を振り返りつつ－」『民具研究』第147号 2012；「サハリン残留朝鮮人の生活史－境遇としての悲劇、語られる自画像－」『生活学論叢』第20号 2011；「日本人において『雑魚』とは何か？－ウグイに対する認識の地域差・時代差をめぐって－」『比較文化研究』No. 98 2009；『クマ祭り－文化観をめぐる社会情報学－』第一書房		
2014年度の 研究課題	①雑魚の雑魚化の過程（北海道開拓記念館北方文化共同研究事業に基づく研究） ②モノの行き場からみた心の行き場に関する民俗学的研究－博物館へのモノの寄贈という行為に焦点をあてて－（北海道開拓記念館・分野別研究「モノをめぐる価値観の変遷とその多様性に関する近現代史－世代間対話の場としての博物館づくりに向けて－」の分担課題）		

青 柳 かつら AOYAGI Katsura

		職 名	事業部展示課兼学芸部学芸第二課学芸員
		学 位	博士（環境学）、2011年（筑波大学大学院生命環境科学研究科）
専 門	産業史、森林科学、環境科学	所 属 学 会	日本森林学会、林業経済学会
こ れ ま で の 研 究 課 題	①高度経済成長期前後における北海道林業従事者の生業技術変遷の解明に関する研究 ②北海道の森林利用史の解明とその地域資源的活用の促進に関する研究 ③関係者のニーズを活かした森林ボランティア活動の発展方策に関する研究		
主 な 研 究 業 績	2013；「マサチューセッツ州ランド・トラスト活動の現場をたずねて」『北方地域のひとと環境の関係史 2010-12年度調査報告書』 2012；「高度経済成長期前後における北海道林業労働者の生業技術の変遷」『北海道開拓記念館研究紀要』第40号 2008；「森林ボランティア活動指導者の指導能力評価の試み」『林業経済研究』第54-3号 2007；「森林ボランティアのエンパワーメントの方策とは」『林業経済研究』第53-1号 2003；「資源利用からみたエゾシカの保護管理」『林業経済研究』第49-1号		
2014年度の 研 究 課 題	①地域再生をめざした博物館を核とする地域資源ナレッジ・マネジメントに関する研究：天塩川流域町村を調査地として、1)産業と暮らしの知恵の記録、2)地域資源マップ作成、3)教育評価、4)流域内交流について実践・検証し、博物館が知識管理によって、地域再生に役割を果たす方策を明らかにする。 ②北方地域の森林利用史とその地域資源的活用に関する研究：北方地域の林業、山菜利用といった森林利用文化、自然保全活動を調査し、地域資源を活用した地域活性化の手法を明らかにして今後の北海道の森林利用文化の展開を考察する。		

会 田 理 人 AIDA Masato

		職 名	事業部展示課兼学芸部学芸第二課学芸員
		学 位	修士、2002年（北海道大学大学院文学研究科）
専 門	産業史	所 属 学 会	日本民具学会、北海道産業考古学会、北海道中央ユーラシア研究会、北海道大学東洋史談話会
こ れ ま で の 研 究 課 題	明治期以降の北海道・樺太産業史。特に、漁業技術と漁具の北海道への伝播・発展、海産物の生産・流通・利用の歴史的展開を解明するために、①産業資料、②文献・記録資料、③聞き取り等に基づく歴史学・民俗学研究を進めてきた。また、博物館産業資料の整理、北海道・樺太の産業遺産・近代化遺産に関する調査に携わってきた。		
主 な 研 究 業 績	2013；「大正期利尻島のアワビ移植事業」『北海道開拓記念館研究紀要』第41号 2013；「樺太におけるパルプ・製紙工場の設立と河川利用」『北方地域のひとと環境の関係史 2010-12年度調査報告書』 2012；「昭和戦前期の樺太におけるコンブ漁」『北海道開拓記念館研究紀要』第40号 2011；「テングサ採りの海女の出稼ぎー三重県志摩地方から北海道利尻・礼文島へー」『北海道開拓記念館研究紀要』第39号 2011；「富山県高岡地方の鉄釜製造技術調査報告」『北海道開拓記念館研究紀要』第39号		
2014年度の 研 究 課 題	①海産物加工の道具と技術の変化に関する近現代史研究(北海道開拓記念館・分野別研究課題) ②流域・沿岸域利用の産業史(北海道開拓記念館・北方文化共同研究事業) ③北海道・樺太の漁具・漁業技術、産業遺産・近代化遺産に関する資料調査・研究 ④国立歴史民俗博物館基幹研究「東日本大震災被災地域における生活文化研究の復興と博物館型研究統合」 ⑤新潟県立博物館共同研究「北前船」		

小 林 孝 二 KOBAYASHI Koji

		職 名	事業部展示課兼学芸部学芸第二課学芸員
		学 位	博士（工学）、2008年（北海道工業大学）
専 門	建築史、建築修復	所 属 学 会	日本建築学会、日本民俗建築学会
こ れ ま で の 研 究 課 題	①アイヌの建築文化、とくにアイヌ文化成立期から近世期末におけるアイヌの建築文化に関する研究 ②北海道におけるアイヌ文化成立期以前の建築活動に関する基礎的研究 ③北海道の住宅史、とくに本州以南からもたらされた住宅文化と開拓使が主導した洋風住宅文化の関連性に関する研究 ④寒地住宅文化の成立過程と変遷に関する研究		
主 な 研 究 業 績	2013；「北海道建築協会機関誌『北海道建築』に見る寒地住宅研究の動向」『北方地域のひとと環境の関係史 2011-12年度調査報告書』 2011；「北海道近代住宅史の再検討」『北方の資源をめぐる先住者と移住者の近現代史ー北方文化共同研究報告ー』北海道開拓記念館 2010；「昭和30年代初期に建築された都市住宅の建設状況と変遷ー都市住宅から見た「高度経済成長期」における道民生活の変化ー」『北海道開拓記念館研究紀要』第38号 2010；『アイヌの建築文化再考ー近世絵画と発掘跡からみたチセの原像』北海道出版企画センター		
2014年度の 研 究 課 題	①北海道におけるアイヌ文化成立期以前の建築活動に関する基礎的研究 ②寒地住宅文化の成立過程と変遷に関する研究 ③北海道における漁家住宅の歴史・地域特性を活かすための研究ー歴史的漁家住宅の遺構調査にもとづくまちづくりへの関与と発展ー		

学芸第三課

三 浦 泰 之 MIURA Yasuyuki

三 浦 泰 之 MIURA Yasuyuki		職 名	事業部教育普及課長兼学芸部学芸第三課長
		学 位	学士、1996年（京都大学文学部日本史学科）
専 門	日本近世史	所 属 学 会	日本史研究会、松浦武四郎研究会、北海道史研究協議会、北海道・東北史研究会
こ れ ま で の 研 究 課 題	「物産会」「博覧会」や「芸能興行」などの、近世以降の都市や村落に展開した〈娯楽的事象〉から歴史や社会を考察することに重点を置いて研究を進めている。また、文書・記録資料の担当の一人として、北海道拓殖銀行資料、青山家資料、林家文書、小樽新聞社記者藤井伝一郎旧蔵写真資料、北洋映画社寄贈16mm映画フィルム、菱昌七撮影8mm映画フィルムなどの近世・近代の文書群や記録資料群の整理と分析に携わってきた。		
主 な 研 究 業 績	2013；「昭和戦前期の新聞写真—小樽新聞記者藤井伝一郎旧蔵写真群について—」『北海道開拓記念館研究紀要』第41号 2013；「神奈川大学日本常民文化研究所所蔵 林孫蔵家文書「松前町年寄詰所日記抜書」I」『余市水産博物館研究報告別冊』（共編） 2011；『松浦武四郎研究序説—幕末維新期における知識人ネットワークの諸相—』北海道出版企画センター制作（共編） 2010；「芸能興行と地域社会—松前・蝦夷地を訪れた旅芸人の事例から」若尾政希ほか編『覚醒する地域意識』（江戸）のひとと身分5、吉川弘文館 2006；「開拓使に雇われた「画工」に関する基礎的研究」『北海道開拓記念館研究紀要』第34号		
2014年度の 研 究 課 題	①北海道史及び北東アジア史に関する画像資料の活用に関する研究（北海道開拓記念館・分野別研究課題） ②北海道内に所在する北海道外関係の近世武家文書に関する基礎的研究（科学研究費補助金・基盤研究(C)・研究代表者） ③開拓使東京官園に関する基礎的研究（北海道開拓記念館・北方文化共同研究事業） ④近世中後期から近代の北日本における芸能興行に関する研究		

山 田 伸 一 YAMADA Shin'ichi

山 田 伸 一 YAMADA Shin'ichi		職 名	事業部展示課長兼学芸部学芸第三課学芸員
		学 位	修士、1996年（北海道大学大学院文学研究科）
専 門	日本近現代史	所 属 学 会	日本史研究会、函館口交流史研究会
こ れ ま で の 研 究 課 題	明治初期における狩猟政策や河川でのサケ漁規制、「北海道旧土人保護法」(1899年)による土地下付や共有財産管理などを中心に、近代のアイヌ政策史・アイヌ史について主に研究を進めてきた。近代北海道における野生生物や森林など自然環境と人間の関係、宗谷海峡を介した人の往来、日本領樺太における朝鮮人史についても関心を向けている。		
主 な 研 究 業 績	2011；『近代北海道とアイヌ民族—狩猟と土地問題—』北海道大学出版会 2010；「開拓使による奥尻島へのシカ移入とその後」『北海道開拓記念館研究紀要』第38号 2009；「札幌県による十勝川流域のサケ禁漁とアイヌ民族」『北海道開拓記念館研究紀要』第37号 2008；「日露戦争前後の海馬島（モネロン島）」『北方の資源をめぐる先住者と移住者の近現代史—2005-07年度調査報告—』 1998；『アイヌ民族 近代の記録』（共編）、草風館		
2014年度の 研 究 課 題	①明治期北海道におけるアイヌ民族の土地所有と利用に関する研究（科学研究費補助金・基盤研究(C)・研究代表者） ②森林・鳥獣の利用・管理の近代史（北海道開拓記念館・北方文化共同研究事業）		

東 俊 佑 AZUMA Shunsuke

東 俊 佑 AZUMA Shunsuke		職 名	事業部教育普及課兼学芸部学芸第三課学芸員
		学 位	修士、2002年（東北学院大学大学院文学研究科アジア文化史専攻）
専 門	日本近世史・北方史	所 属 学 会	北海道・東北史研究会、満族史研究会、東北史学会、歴史学研究会
こ れ ま で の 研 究 課 題	17～19世紀ごろの北海道やサハリンの歴史について、①「幕末期における幕府の蝦夷地政策と対外関係」、②「アムール川下流域～サハリンにおける諸民族の交易活動」、③「アイヌの生活様式の変容」、④「東北地方所在の蝦夷地関係史料の調査」などのテーマを軸に研究をすすめてきた。近年は、主として、金属製飾り(ウチ)を中心とした北方諸民族の物質文化資料の研究に取り組んでいる。また、文書資料の担当として、「林家文書」などの近世文書群の整理作業と分析をすすめてきた。		
主 な 研 究 業 績	2013；「ニヴフの交易活動に係る聴き取りと物質文化資料の調査について－2010年度調査報告－」『北海道開拓記念館研究紀要』第41号（共著） 2013；「近世蝦夷地交易品ノート(1)－17～18世紀アイヌ生産品を中心に－」『北方地域のひとと環境の関係史 2010-12年度調査報告』 2012；「岩手県宮古市所在・金沢家文書の蝦夷地関係史料について」『北海道・東北史研究』第8号 2012；「近年の研究動向と古文書から探るアイヌの交易活動」『仙台藩白老元陣屋資料館報』第17号 2010；「幕末のサンタン交易について」『北方の資源をめぐる先住者と移住者の近現代史－北方文化共同研究報告－』		
2014年度の 研 究 課 題	①北海道史及び北東アジア史に関する画像資料の活用に関する研究(北海道開拓記念館・分野別研究課題) ②先住民による環境利用「蝦夷地開発・環境変化とアイヌ社会の変容」(北海道開拓記念館・北方文化共同研究事業) ③アムール川下流域で生産された装飾品及び外来交易品の周辺諸民族への波及に関する研究(科学研究費補助金・基盤研究(C)・研究代表者) ④ロシア・中国を中心とする在外日本関係史料の調査・分析と研究資源化の研究(科学研究費補助金・基盤研究(A)・連携研究者) ⑤北東アジアにおける帝国のプレゼンスと地域社会(科学研究費補助金・基盤研究(B)・連携研究者) ⑥アイヌ漆器に関する歴史的研究－文献史学と考古学、民俗学・文化人類学の連携(科学研究費補助金・基盤研究(C)・連携研究者)		

山 際 晶 子 YAMAGIWA Shoko

山 際 晶 子 YAMAGIWA Shoko		職 名	事業部教育普及課兼学芸第三課学芸員
		学 位	修士、2011年（北海道大学大学院文学研究科）
		所 属 学 会	美学会、美術史学会、北海道芸術学会
専 門	日本美術史		
こ れ ま で の 研 究 課 題	江戸時代以降に蝦夷地やアイヌの人々を描いた"アイヌ絵"の成立や展開についての調査・研究に取り組むほか、道内の寺社に奉納された絵馬の調査を行なっている。		
主 な 研 究 業 績	2013；「早坂文嶺筆『蝦夷島奇観』写本について」『北海道開拓記念館研究紀要』第41号 2013；「余市町教育委員会所蔵の《アイヌ絵（武者のぼり下絵）》について－「島の為朝」図との関係－」『北海道開拓記念館研究紀要』第41号 2013；「北海道開拓記念館所蔵の吉田初三郎筆《北海道鳥瞰図屏風》について」『北方地域の人と環境の関係史 2010－12年度調査報告』 2012；「北海道開拓記念館所蔵の『蝦夷島奇観』写本をめぐって－平沢屏山筆絵画との関係－」『北海道開拓記念館研究紀要』第40号 2011；「林昇太郎美術史論集『アイヌ絵とその周辺』（書評）」『北海道史研究協議会会報』第88号		
2014年度 の 研 究 課 題	①北海道開拓記念館所蔵美術資料の調査・研究（北海道開拓記念館・分野別研究） ②北方地域における風景表現について（北海道開拓記念館・北方文化共同研究事業） ③画像資料の分析による「義経蝦夷渡伝説」の受容についての研究（科学研究費補助金・若手研究(B)・研究代表者）		

寺 林 伸 明 TERABAYASHI Nobuaki

寺 林 伸 明 TERABAYASHI Nobuaki		職 名	学芸部資料情報課兼学芸部学芸第三課学芸員
		学 位	学士、1976年（明治大学文学部史学地理学科東洋史学専攻）
		所属学会	歴史科学協議会、札幌郷土を掘る会
専 門	日本近現代史		
こ れ ま で の 研 究 課 題	①北海道、日本の軍事・戦時体制と東アジア関係史。特に、国民に対する統合・統制・動員の面から、大正末期の青少年軍事教練制度の導入、「満洲事変」期の陸軍国防思想宣伝、更生運動下の住民教化施策、昭和12年以降の戦時貯蓄活動について。また植民地支配と労働動員・国策移民の面から、北海道千島樺太における戦時土工工事と朝鮮人労働者、中国黒竜江省における北海道「開拓団」と現地農民との関係史について。 ②後志地方の鯨漁業と余市・寿都銀行、北陸・東北諸県の北海道・北洋への漁船・漁夫出稼について。		
主 な 研 究 業 績	2013；『日中両国から見た「満洲開拓」 体験・記憶・証言』御茶の水書房（共編、平成18～21年度科研費・基盤研究(B)海外・研究成果） 2006；『日本の博物館における明治以降の戦争関係史展示の現況と国際関係認識の課題について』（平成13～16年度科研費・基盤研究 (C) (2)研究成果報告書） 2006；「北海道の鯨漁業における出稼構造と漁夫募集－明治中期以降の水産調査と小樽・青山家を例として」『北海道開拓記念館研究報告』第19号 2000；「主要な文書群の紹介」『北海道拓殖銀行資料目録・1』北海道開拓記念館一括資料目録第34集 1999；「土建事業場における労働と生活」『北海道と朝鮮人労働者－朝鮮人強制連行実態調査報告書』（北海道保健福祉部保護課）		
2014年度 の 研 究 課 題	①北東アジアにおける帝国のプレゼンスと地域社会（科学研究費補助金・基盤研究(B)・研究分担者） ②大正～昭和前期の展示構成について、特に第一次大戦以降の小樽港における産業、労働、社会運動を中心として ③戦後史展示と国際関係認識について、特に占領期以降の経過と東アジアの国際関係を中心として		

北海道博物館の設置に向けて Renewal to the Hokkaido Museum

1 「北海道博物館基本計画」の策定

(1) 知事公約「北海道ミュージアム」について

平成19年3月、高橋はるみ知事の2期目の公約である「新生北海道・第Ⅱ章」に、北海道ミュージアムという概念が盛り込まれました。

◎知事公約抜粋

アイヌ文化を次代に継承し、その営みを広く普及するため、イオルの再生や、開拓記念館のリニューアルによる北海道ミュージアムの設置に取り組みます。

北海道ミュージアムは、アイヌ文化を次代に継承し、その営みを広く普及することを目的とし、開拓記念館のリニューアルという手段によって設置を目指す概念です。

(2) 北海道文化審議会への諮問・答申について

北海道ミュージアムの具体化に向け、平成20年5月に知事は、北海道文化審議会に対し、「北海道における博物館のあり方と開拓記念館の役割」について諮問しました。

これを受け、審議会では、博物館関係者のほかアイヌ民族関係者や研究者の意見を聴き、幅広い観点から検討を進める必要があるとの判断から、道内外の有識者10名からなる特別委員会を設置して検討を進め、平成21年8月に知事に対し、「開拓記念館の今後のあり方」として、求められる役割と発揮すべき機能について、次のとおり答申しました。

〈求められる役割〉

- ① わかりやすく、おもしろく、ためになる博物館づくりなど、博物館としての基本的役割
 - ② 自然、環境を含む未来に向けた人間史の博物館、アイヌ文化を保存、伝承し未来に活かす博物館など、北海道における総合的な博物館としての役割
 - ③ 人・モノ・情報といった分野におけるネットワークの充実強化など、道内博物館の中核施設としての役割
- これらの役割を果たしていくため、資料の収集・保存、展示、教育普及、調査研究などの観点から、博物館として発揮すべき機能を充実していく必要がある。

(3) 北海道博物館基本計画検討委員会の設置

北海道文化審議会の答申を踏まえ、北海道開拓記念館のリニューアルにより設置する北海道ミュージアム(仮称)に係る基本計画の策定に向けた検討を行なうため、平成21年11月に庁内に「北海道ミュージアム(仮称)基本計画検討委員会」を設置しました。

検討委員会は、北海道文化審議会の答申や開拓記念館の考え方や要望を整理した「北海道開拓記念館のリニューアルに向けて」などを踏まえ、平成22年4月に「北海道博物館(仮称)基本計画」素案を取りまとめました。この後、パブリックコメントを実施し、これを取りまとめ反映させ、平成22年9月に「北海道博物館基本計画」が策定されました。

2 北海道ミュージアム推進事業(2010年度)

アイヌ文化等を含めた北海道の歴史を継承する総合的な博物館として、また道内博物館の中心的役割を果たすことができる「北海道ミュージアム」の実現に向け、平成22年度に「北海道ミュージアム推進事業」を北海道の特定重点事業として予算化し、当館において必要な事業を実施しました。この事業は、①「わかりやすくおもしろい総合的な博物館づくり」、②「道内の中心的博物館への転換」、③「博物館としての基本的機能の強化・充実」の3つを施策の柱とし、ミュージアムメイトへの意見聴取、記念館利用者へのアンケート調査、道内博物館関係者へのアンケート調査、アイヌ文化充実のためのヒアリング調査、リニューアルプラン策定のための情報収集、収蔵機能強化プラン策定に向けた検討会、博物館リニューアルプラン策定に向けた検討会、を具体的に実施しました。

3 北海道博物館設置推進事業(2011年度)

開拓記念館のリニューアルによる「北海道博物館」設置に向けた取組を推進するため、平成23年度に「北海道博物館設置推進事業」を北海道の特定重点事業として予算化し、当館において必要な事業を実施しました。具体的には、①構造・設備改修診断調査(老朽化対策としての施設整備、展示改訂等の実効性確保のための建物強度等の調査)、②「北海道博物館設置プラン検討委員会」(外部の専門的立場の方々から指導・助言をいただき、平成24年3月に「北海道博物館リニューアル検討報告書」として答申を受けました)設置運営、③シンポジウム「北海道博物館と魅力ある地域づくり」(平成23年11月16日開催)の開催、を実施しました。

4 「北海道博物館実施計画」の策定(2012～2013年度)

前年度末に答申をうけた「北海道博物館リニューアル検討報告書」の内容を踏まえ、環境生活部において平成25年3月に「北海道博物館実施計画」を策定しました。また、平成27年春の「北海道博物館」リニューアルオープンをめざし、開拓記念館とアイヌ民族文化研究センターの統合や、「北海道博物館」の組織体制に係る検討をすすめるとともに、施設改修工事の実施設計委託、常設展示改修の基本設計委託、実施設計委託をおこないました。

条例・規則など Ordinance, Rule of Historical Museum of Hokkaido

1 北海道立開拓記念館条例

昭和46年3月12日条例第4号

改正 昭和55年3月31日条例第7号

改正 昭和59年4月1日条例第11号

改正 平成4年3月31日条例第26号

改正 平成8年3月31日条例第12号

改正 平成16年3月31日条例第18号

改正 平成20年3月31日条例第21号

改正 平成21年10月16日条例第90号

改正 平成24年3月30日条例第23号

(設 置)

第1条 北海道百年を記念して、北海道の歴史及び自然に対する認識を深めるため、北海道立開拓記念館（以下「記念館」という。）を設置する。

(名称及び位置)

第2条 記念館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
北海道立開拓記念館	札幌市及び江別市

(記念館に置く施設)

第3条 記念館に、次に掲げる施設を置く。

- (1) 北海道開拓記念館（以下「本館」という。）
- (2) 北海道開拓の村（以下「開拓の村」という。）
- (3) 野幌森林公園自然ふれあい交流館（以下「ふれあい交流館」という。）

(事 業)

第4条 記念館は、次の表の左欄に掲げる施設の区分に応じ、同表の当該右欄に定める事業を行う。

(1)本館	ア 北海道の開拓その他の歴史に関する資料を収集し、保管し、及び展示すること。 イ 本館が収集し、保管し、又は展示する資料（以下「本館資料」という。）に関する専門的な調査研究を行うこと。 ウ 本館資料の保管及び展示等に関する技術的な研究を行うこと。 エ 北海道の開拓その他の歴史に関する講演会、講習会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。 オ 本館資料に関する案内書、解説書、目録、研究紀要等を作成し、及び配布すること。
(2)開拓の村	ア 北海道の開拓の歴史を示す建造物等を保管し、及び展示すること。 イ 北海道の開拓過程における生活様式、年中行事等に係る催しを行うこと。 ウ 開拓の村の展示物に関する案内書、解説書等を作成し、及び配布すること。
(3)ふれあい交流館	ア 道立自然公園野幌森林公園の自然に関する資料を収集し、保管し、及び展示すること。 イ ふれあい交流館が収集し、保管し、又は展示する資料（以下「交流館資料」という。）に関する調査研究を行うこと。 ウ 自然に関する情報提供を行うこと。 エ 自然に関する講演会、講習会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。

2 記念館は、前項の事業のほか、その設置の目的を達成するために必要な事業を行う。

(指定管理者による管理)

第5条 記念館の管理は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第3項の規定による指定を受けた法人その他の団体（以下「指定管理者」という。）に行わせるものとする。

(指定管理者が行う業務の範囲)

第6条 指定管理者が行う業務は、次のとおりとする。

- (1) 第4条（第1項の表(1)の項を除く。）に定める事業に関すること。
- (2) 第8条、第11条、第14条第2項及び第17条第2項の承認に関すること。
- (3) 施設及び設備（以下「施設等」という。）の維持管理に関すること。
- (4) その他知事が定める業務

(利用日及び利用時間)

第7条 記念館の利用日及び利用時間は、別表第1のとおりにする。

2 前項の規定にかかわらず、指定管理者は、記念館の管理運営上必要があるときその他特に必要があると認めるときは、知事の承認を得て、臨時に記念館（本館を除く。）の利用日又は利用時間を変更することができる。

3 第1項の規定にかかわらず、知事は、本館の管理運営上必要があるときその他特に必要があると認めるときは、臨時に本館の利用日又は利用時間を変更することができる。

(利用の承認)

第8条 本館若しくは開拓の村又は次に掲げる設備を利用しようとする者は、指定管理者の承認を受けなければならない。

- (1) 北海道百年記念塔前駐車場
- (2) 北海道開拓の村前駐車場

(利用の承認の基準)

第9条 指定管理者は、前条の承認を受けようとする者が次の各号のいずれかに該当するときは、同条の承認をしてはならない。

- (1) 利用の目的が記念館の設置の目的に反するとき。
- (2) 記念館の秩序を乱すおそれがあると認められるとき。
- (3) 施設等を損傷するおそれがあるとき。
- (4) その他記念館の管理運営上支障があると認められるとき。

(利用料金)

第10条 第8条の承認を受けた者は、その利用に係る料金（以下「利用料金」という。）を指定管理者に納めなければならない。

2 前項の規定により指定管理者に納められた利用料金は、指定管理者の収入とする。

3 利用料金の額は、別表第2に定める額の範囲内において、指定管理者が知事の承認を受けて定める。これを変更しようとするときも、同様とする。

4 知事は、前項の承認をしたときは、その承認をした利用料金の額を告示しなければならない。

5 指定管理者は、規則で定める基準に従い、利用料金を減免することができる。

(開拓の村建物等の使用の承認)

第11条 開拓の村建物等（開拓の村の建物（管理棟（ホールを除く。）を除く。）及び当該建物の附属設備、展示されている建造物等（以下「展示建造物等」という。）並びに入口広場をいう。以下同じ。）を使用しようとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。

(開拓の村建物等の使用の承認の基準)

第12条 指定管理者は、前条の承認を受けようとする者が次の各号のいずれかに該当するときは、同条の承認をしてはならない。

- (1) 使用の目的が記念館の設置の目的に反するとき。
- (2) 開拓の村の秩序を乱すおそれがあると認められるとき。
- (3) 施設等を損傷するおそれがあるとき。
- (4) その他開拓の村の管理運営上支障があると認められるとき。

(開拓の村建物等の使用の承認の取消し等)

第13条 指定管理者は、第11条の承認を受けた者が次の各号のいずれかに該当するときは、同条の承認を取り消し、又はその使用を制限し、若しくは停止することができる。

- (1) この条例若しくはこの条例に基づく規則又はこれらの規定に基づく処分に違反したとき。
- (2) 虚偽の申請その他不正な手段により第11条の承認を受けたとき。
- (3) その他開拓の村の管理運営上支障があると認められたとき。

(特別観覧等の承認)

第14条 特別観覧（本館資料の閲覧、模写、模造、撮影及び複写をいう。以下同じ。）を行おうとする者は、あらかじめ、規則で定めるところにより、知事の承認を受けなければならない。

2 特別利用（開拓の村の展示建造物等及び管理棟の模写、模造及び撮影並びに交流館資料の模写、模造、撮影及び複写をいう。以下同じ。）を業として又は学術研究のため行おうとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。

(特別観覧等の方法等)

第15条 特別観覧は、職員の指示に従って行わなければならない。

2 知事は、特別観覧の承認を受けた者が前項の規定に違反したときは、その承認を取り消すことができる。

3 特別利用は、指定管理者の指示に従って行わなければならない。

4 指定管理者は、特別利用の承認を受けた者が前項の規定に違反したときは、その承認を取り消すことができる。

(模写品等の刊行等の承認)

第16条 本館資料、開拓の村の展示建造物等若しくは管理棟又は交流館資料を模写し、模造し、撮影し、又は複写したものを刊行し、若しくは複製し、又は研究発表等に使用しようとする者は、あらかじめ、規則で定めるところにより、知事の承認を受けなければならない。

(資料の貸出しの承認)

第17条 本館資料の貸出しを受けようとする者は、あらかじめ、規則で定めるところにより、知事の承認を受けなければならない。

2 交流館資料の貸出しを受けようとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。

3 指定管理者は、前項の承認を受けようとする者が次の各号のいずれかに該当するときは、同項の承認をしてはならない。

- (1) 交流館資料の使用の目的が記念館の設置の目的に反するとき。
- (2) 交流館資料を損傷するおそれがあるとき。

(知事による管理)

第18条 第5条の規定にかかわらず、知事は、やむを得ない事情があると認めるときは、記念館の管理に係る業務を行うことができる。

2 前項の規定により知事が記念館の管理に係る業務を行う場合においては、第7条第2項中「指定管理者」とあるのは「知事」と、「ときは、知事の承認を得て」とあるのは「ときは」と、第8条及び第9条中「指定管理者」とあるのは「知事」と、第10条第1項中「その利用に係る料金（以下「利用料金」という。）」とあるのは「別表第2に定める額の範囲内において知事が定める額の使用料」と、「指定管理者」とあるのは「知事」と、同条第5項中「指定管理者」とあるのは「知事」と、「利用料金」とあるのは「使用料」と、第11条から第15条まで並びに前条第2項及び第3項の規定中「指定管理者」とあるのは「知事」とし、第10条第2項から第4項までの規定は、適用しない。

(規則への委任)

第19条 この条例に定めるもののほか、記念館の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

この条例は、昭和46年4月1日から施行する。

(中略)

附 則（平成21年10月16日条例第90号）

1 この条例は、平成22年4月1日から施行する。

2 次に掲げる条例は、廃止する。

(1) 北海道立野幌森林公園駐車場条例（昭和46年北海道条例第5号）

(2) 北海道立開拓の村条例（昭和58年北海道条例第5号）

(3) 北海道立野幌森林公園自然ふれあい交流館条例（平成13年北海道条例第2号）

(以下略)

別表第1（第7条関係）

区 分	利 用 日	利用時間
本館	1月4日から12月28日まで（月曜日及び国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第2条に規定する国民の祝日（同条に規定することの及ぶ文化の日を除く。）を除く。）	午前9時30分から 午後4時30分まで
開拓の村及びふれあい交流館	1月4日から12月28日まで（月曜日（当該日が国民の祝日に関する法律に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、休日に該当しない当該日の直後の日）を除く。）	
北海道百年記念塔前駐車場及び北海道開拓の村前駐車場	4月1日から10月31日まで	午前9時から 午後5時まで

別表第2（第10条関係）

1 本館において常設展示を観覧する場合

区 分	利用料金の上限額	
	個 人	10人以上の団体
1 高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者	250円	1人につき 190円
2 1以外の者（学齢に達しない者、小学校の児童、中学校の生徒及びこれらに準ずる者を除く。）	700円	1人につき 600円

2 本館において特別展示を観覧する場合

区 分	利用料金の上限額	
	個 人	10人以上の団体
1 小学校の児童、中学校の生徒及びこれらに準ずる者	120円	1人につき 90円
2 高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者	250円	1人につき 190円
3 1及び2以外の者（学齢に達しない者を除く。）	700円	1人につき 600円

3 本館において常設展示及び特別展示を併せて観覧する場合

区 分	利用料金の上限額	
	個 人	10人以上の団体
1 小学校の児童、中学校の生徒及びこれらに準ずる者	120円	1人につき 90円
2 高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者	450円	1人につき 340円
3 1及び2以外の者（学齢に達しない者を除く。）	1,260円	1人につき 1,000円

4 本館において携帯用展示解説器を利用する場合
1回につき 190円

5 開拓の村に入場する場合

区 分		利用料金の上限額	
		個 人	10人以上の団体
1 高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者	夏期	1,040円	1人につき 940円
	冬期	940円	1人につき 880円
2 1以外の者（学齢に達しない者、小学校の児童、中学校の生徒及びこれらに準ずる者を除く。）	夏期	1,420円	1人につき 1,160円
	冬期	1,160円	1人につき 940円

6 開拓の村の馬車鉄道又は馬そりを利用する場合

区 分	利用料金の上限額
1 3歳以上15歳未満の者	1人1回につき 230円
2 15歳以上の者	1人1回につき 490円

7 北海道百年記念塔前駐車場又は北海道開拓の村前駐車場を利用する場合

区 分	利用料金の上限額
バス	1回1日につき 620円
乗用車	1回1日につき 300円
自動二輪車（原動機付自転車を含む。）	1回1日につき 200円

備考

- 5の表において、夏期とは4月1日から11月30日までとし、冬期とは12月1日から翌年3月31日までとする。
- 7の表において、貨物自動車の利用料金については、車体の大きさによって、バス又は乗用車の区分によるものとする。

2 北海道立開拓記念館管理規則

昭和46年4月1日規則第27号

改正 昭和49年4月1日規則第24号

改正 昭和56年3月31日規則第12号

改正 昭和63年6月30日規則第89号

改正 昭和63年11月7日規則第107号

改正 平成元年3月31日規則第68号

改正 平成6年3月31日規則第30号

改正 平成7年10月17日規則第77号

改正 平成8年3月31日規則第27号

改正 平成10年3月24日規則第22号

改正 平成11年2月19日規則第13号

改正 平成12年3月31日規則第159号

改正 平成13年1月5日規則第1号

改正 平成16年3月31日規則第40号

改正 平成19年3月16日規則第19号

改正 平成22年3月31日規則第31号

（趣 旨）

第1条 この規則は、北海道立開拓記念館条例（昭和46年北海道条例第4号。以下「条例」という。）の規定に基づき、北海道立開拓記念館（以下「記念館」

という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(入館の制限)

第2条 酒に酔っている者その他記念館の秩序をみだすおそれがあると認められる者に対しては、条例第5条に規定する指定管理者(以下「指定管理者」という。)は、入館を拒み、又は退館させることができる。

(入館者の遵守事項)

第3条 入館者は、条例、この規則並びに職員及び指定管理者の指示に従うほか、特に次に掲げる事項を遵守しなければならない。

(1) 建物、附属設備又は条例第4条第1項の表に規定する本館資料(以下「本館資料」という。)、同表に規定する交流館資料(以下「交流館資料」という。)(若しくは条例第11条に規定する展示建造物等(以下「展示建造物等」という。))を汚し、若しくは損傷し、又はそれらのおそれのある行為をしないこと。

(2) 他人に迷惑を及ぼし、又はそのおそれのある行為をしないこと。

(3) 指定の場所以外で飲食し、又は喫煙しないこと。

2 指定管理者は、入館者が前項の規定に違反したことにより記念館の管理運営上支障があると認めるときは、当該入館者に対しては、記念館の利用を制限し、又は退館をさせることができる。

(利用料金の額の承認)

第4条 指定管理者は、条例第10条第3項の規定により利用料金の額について知事の承認を受けようとするときは、別記第1号様式の利用料金承認申請書を知事に提出しなければならない。

(利用料金の減免の基準)

第5条 条例第10条第5項の規則で定める基準は、次のとおりとする。

(1) 次に掲げる者については、条例第10条第1項に規定する利用料金(条例別表第2の4の事項、6の表及び7の表に係るものを除く。以下「利用料金」という。)を免除することができることとする。

ア 小学校の児童又は中学校若しくは中等教育学校の前期課程の生徒の引率者である教職員

イ 土曜日又は国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)第2条に規定するこどもの日若しくは文化の日に利用する高等学校の生徒及びこれに準ずる者

ウ 学校教育又は社会教育により利用する高等学校の生徒及びこれに準ずる者(10人以上で利用する場合に限る。)

エ 特別支援学校の児童及び生徒並びにこれらの引率者

オ 児童福祉法(昭和22年法律第164号)第7条第1項に規定する児童福祉施設に入所し、又

は通園している少年及びその引率者

カ 身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)第15条第4項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその引率者

キ 生活保護法(昭和25年法律第144号)による保護を受けている者

ク 児童相談所、知的障害者更生相談所、精神保健福祉センター若しくは障害者職業センターの長又は精神保健指定医により知的障害者と判定された者及びその引率者

ケ 精神保健福祉センターの長、精神保健指定医又は精神科を標ぼうする医師により精神障害者(知的障害者を除く。)と判定された者及びその引率者

コ 老人福祉法(昭和38年法律第133号)第5条の3に規定する老人福祉施設に入所している者及びその引率者

サ 65歳以上の者

シ その他知事がアからサまでに掲げる者に準ずる者と認めるもの

(2) 前号に掲げるもののほか、知事が特別な理由があると認める場合は、利用料金を減免することができることとする。

(開拓の村建物等の設備の変更の禁止)

第6条 条例第11条の承認を受けた者は、同条に規定する開拓の村建物等(以下「開拓の村建物等」という。)の使用に際し、開拓の村建物等に特別の設備をし、又は変更を加えてはならない。ただし、あらかじめ、指定管理者の承認を受けたときは、この限りでない。

(原状回復の義務)

第7条 条例第11条の承認を受けた者は、開拓の村建物等の使用を終了したときは、施設を原状に回復しなければならない。条例第13条の規定により使用の承認を取り消され、又は使用を制限され、若しくは使用を停止されたときも同様とする。

2 前項の義務を履行しないときは、指定管理者が代わって行い、その費用を当該条例第11条の承認を受けた者から徴収するものとする。

(特別観覧の承認)

第8条 条例第14条第1項に規定する特別観覧(以下「特別観覧」という。)の承認を受けようとする者は、別記第2号様式の特別観覧承認申請書を知事に提出しなければならない。

2 知事は、特別観覧を承認したときは、別記第3号様式の特別観覧承認書を交付するものとする。

(特別観覧等の時間)

第9条 特別観覧及び特別利用(条例第14条第2項に規定する特別利用をいう。以下同じ。)を行うことができる時間は、午前10時から午後4時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、知事は、必要と認めた

ときは、特別観覧の時間を変更することができる。

- 3 第1項の規定にかかわらず、指定管理者は、必要と認めたときは、特別利用の時間を変更することができる。

(模写品等の刊行等の承認)

第10条 条例第16条の承認を受けようとする者は、別記第4号様式の模写品等刊行等承認申請書を知事に提出しなければならない。

- 2 知事は、条例第16条の承認をしたときは、別記第5号様式の模写品等刊行等承認書を交付するものとする。

(資料の貸出し)

第11条 条例第17条第1項の承認を受けようとする者は、別記第6号様式の資料貸出承認申請書を知事に提出しなければならない。

- 2 知事は、前項の規定による申請があったときは、当該申請者が次のいずれかに該当する場合に限り、承認することができる。

(1) 独立行政法人通則法(平成11年法律第103号)

第2条第1項に規定する独立行政法人が設置する博物館及び美術館、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項に規定する博物館並びに同法第29条の規定により文部科学大臣又は都道府県教育委員会の指定した博物館に相当する施設の長

(2) 社会教育法(昭和24年法律第207号)第21条に規定する公民館の長

(3) 国立の図書館及び図書館法(昭和25年法律第118号)第2条第1項に規定する図書館の長

(4) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する学校の長

(5) その他知事が適当と認める者

- 3 知事は、前項の規定による承認をしたときは、別記第7号様式の資料貸出承認書を交付するものとする。

(本館資料等の貸出期間)

第12条 本館資料及び交流館資料の貸出しをすることができる期間(以下「貸出期間」という。)は、30日以内とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、知事は、特に必要と認めたときは、本館資料の貸出期間を延長することができる。

- 3 第1項の規定にかかわらず、指定管理者は、特に必要があるときは、交流館資料の貸出期間を延長することができる。

- 4 知事は、必要があるときは、貸出期間中であっても、本館資料の返還を求めることができる。

- 5 指定管理者は、必要があると認めるときは、貸出期間中であっても、交流館資料の返還を求めることができる。

(本館資料等の滅失等の届出等)

第13条 本館資料の貸出しを受けた者は、当該本館

資料を滅失し、又は損傷したときは、直ちにその旨を知事に届け出なければならない。

- 2 交流館資料の貸出しを受けた者は、当該交流館資料を滅失し、又は損傷したときは、直ちにその旨を指定管理者に届け出なければならない。

- 3 指定管理者は、前項の規定による届出があったときは、速やかにその旨を知事に報告しなければならない。

(知事による管理)

第14条 条例第18条第1項の規定により知事が記念館に係る業務を行う場合においては、第2条中「条例第5条に規定する指定管理者(以下「指定管理者」という。)」とあるのは「知事」と、第3条第1項中「並びに職員及び指定管理者」とあるのは「及び職員」と、同条第2項中「指定管理者」とあるのは「知事」と、第5条第1号中「条例第10条第1項」とあるのは「条例第18条第2項の規定により読み替えられた条例第10条第1項」と、「利用料金」とあるのは「使用料」と、同条第2号中「利用料金」とあるのは「使用料」と、第6条、第7条第2項、第9条第3項、第12条第3項及び第5項並びに前条第2項の規定中「指定管理者」とあるのは「知事」とし、同条第3項の規定は、適用しない。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

(中略)

附 則(平成22年3月31日規則第31号)

- 1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。

- 2 次に掲げる規則は、廃止する。

(1) 北海道立野幌森林公園駐車場管理規則(昭和46年北海道規則第28号)

(2) 北海道立野幌森林公園自然ふれあい交流館条例施行規則(平成13年北海道規則第77号)

(3) 北海道立開拓の村管理規則(昭和58年北海道規則第21号)

3 北海道開拓記念館資料管理要領(抜萃)

(昭和54年9月13日決定)

第1 趣旨

開拓記念館資料の収集、保存、修繕、貸出し及び処分については、別に定めるもののほか、この要領の定めるところによる。

第2 定義

この要領において、「開拓記念館資料」とは、北海道歴史に関する資料として開拓記念館において収集し、保存、展示又は研究に供すべき物品をいう。

第3 知事と権限の委任

知事は、開拓記念館長に対し、開拓記念館資料に係る次の各号に掲げる事項の執行を委任する。

- (1) 取得、管理及び処分を行うこと。
- (2) 借入れを行い、及び寄託を受けること。
- (3) 出納の通知を行うこと。

第4 資料管理主任

1 開拓記念館資料の供用並びに出納及び保管を行わせるため、開拓記念館に物品管理主任（北海道財務規則（昭和45年北海道規則第30号。以下「財務規則」という。）第11条第1項に規定する物品管理主任をいう。）を置く。

2 前項の物品管理主任を資料管理主任と称する。

第5 収集の方法

1 開拓記念館資料の収集は、次に掲げる方法によるものとする。

- (1) 取得
- (2) 管理換
- (3) 借入れ
- (4) 寄託を受け入れること。

2 開拓記念館資料の取得の方法は、購入、寄附、製作、復元、採集、発掘等によるものとする。

第6 収集の基準（省略）

第7 購入

財務規則第213条の規定は、開拓記念館資料の購入について準用する。この場合において、同条中「物品管理者」とあるのは「開拓記念館長」と、「物品管理主任」とあるのは「資料管理主任」と読み替えるものとする。

第8 寄附

1 開拓記念館長は、寄附により開拓記念館資料を取得しようとするときには、別記第1号様式の開拓記念館資料受入決定書により、当該開拓記念館資料の寄附受入れの決定をし、資料管理主任に対し、受入れの通知をするものとする。ただし、当該寄附が重要又は異例に属すると認められるものについては、あらかじめ、総務部長の承認を受けなければならない。

第9 製作又は復元（省略）

第10 採集又は発掘（省略）

第11 管理換（省略）

第12 借入れ（省略）

第13 借り入れた開拓記念館資料の返還（省略）

第14 寄託を受け入れること

1 開拓記念館長は、開拓記念館資料の寄託を受けようとするときは、別記4号様式の北海道開拓記念館資料寄託申込書を徴し、当該開拓記念館資料の受託及び受入れの決定をし、資料管理主任に対し、受入れの通知をするものとする。

2 資料管理主任は、前項の通知を受けたときには、当該開拓記念館資料を受け入れるとともに、別記第5号様式の北海道開拓記念館寄託物品受領書を寄託者に交付しなければならない。

第15 整理区分（省略）

第16 保存（省略）

第17 記録票の作成（省略）

第18 収蔵番号の表示（省略）

第19 台帳の備付け（省略）

第20 保存状況の調査（省略）

第21 修繕（省略）

第22 貸出し（省略）

第23 貸し出した開拓記念館資料の返納（省略）

第24 不用の決定等

1 開拓記念館長は、開拓記念館資料につき保存の必要がないと認めるときは、別記第9号様式の開拓記念館資料不用決定書により、不用の決定をするものとする。

第25 不用品の廃棄（省略）

第26 譲与

1 開拓記念館長は、開拓記念館資料を譲与しようとするときには、開拓記念館資料払出決定書により譲与及び払出しの決定をし、資料管理主任に対し、払出しの通知をするものとする。

2 資料管理主任は、前項の通知を受けたときは、受領書を徴して相手方に当該開拓記念館資料を引き渡さなければならない。

第27 開拓記念館資料の支給（省略）

第28 収蔵庫への立入制限（省略）

第29 開拓記念館長への委任

この要領に定めるもののほか、開拓記念館資料の管理に関し必要な事項は、開拓記念館長が定める。

第30 施行

この要領は、昭和54年10月1日から施行する。

巻末付録 文書様式 (北海道立開拓記念館管理規則に定める様式)

別記第2号様式（第8条関係）

	年	月	日	
北 海 道 知 事 様				
申 請 者 住 所 職 業 氏 名				
特 別 観 覧 承 認 申 請 書				
次のとおり北海道開拓記念館資料の特別観覧の承認を受けたいので、北海道立開拓記念館条例第14条第1項の規定により、申請します。				
資 料 品 名	点	数	備 考	
観 覧 日	年 月 日			
観 覧 方 法	閲 覧 模 写 模 造 撮 影 複 写			
観 覧 目 的				

(用紙寸法 日本工業規格 A 4)

別記第3号様式（第8条関係）

年	月	日	
北海道知事			
特別観覧承認書			
年 月 日申請の北海道開拓記念館資料の特別観覧を次のとおり承認します。			
資 料 品 名	点 数	備 考	
観 覧 日	年 月 日		
観 覧 方 法	関 覧 模 写 模 造 撮 影 複 写		
観 覧 目 的			

注 意

- 1 北海道立開拓記念館条例及び北海道立開拓記念館管理規則の規定を遵守すること。
- 2 北海道開拓記念館資料、施設、設備その他物件を損傷し、又は滅失したときは、これを原形に復し、又はその損害を賠償しなければならないこと。

(用紙寸法 日本工業規格 A 4)

別記第4号様式（第10条関係）

その 1

	年	月	日	
北海道知事様				
申請者 職 氏 住 所 業 名				
模写品等刊行等承認申請書				
次のとおり（北海道開拓記念館資料 野幌森林公園自然ふれあい交流館資料）の（模写 模造 撮影 複写）品の（刊行 複製 使用）の承認を受けたいので、北海道立開拓記念館条例第16条の規定により、申請します。				
使 用 目 的				
資 料 名				
作 品 名				
製 作 数				
価 額	有 料 円 無 料			
製 作 予 定 年 月 日	年 月 日			

(用紙寸法 日本工業規格 A 4)

そ の 2

年 月 日	
北海道知事様	
申請者 住所 職業 氏名	
模写品等刊行等承認申請書	
次のとおり（北海道開拓の村の展示建造物等 北海道開拓の村の管理棟）の（模写 模造 撮影 複写）品の（刊行 複製 使用）の承認を受けたいので、北海道立開拓記念館条例第16条の規定により、申請します。	
使用目的	
建物等の名称	
作品名	
製作数	
価格	有料 円 無料
製作予定 年 月 日	

(用紙寸法 日本工業規格 A 4)

別記第5号様式（第10条関係）

年 月 日

申請者様

北海道知事 閣下

模写品等刊行等承認書

年 月 日申請の模写品等の（刊行 複製 使用）を次のとおり承認します。

使用目的	
資料名又は建物等の名称	
作品名	
製作数	
価 額	有 料 円 無 料
製作予定 年 月 日	年 月 日

注 意

1 上記目的以外に使用しないこと。

2 使用に際しては、北海道立開拓記念館所有の旨を明記すること。

3 刊行物、複製品、発表作品等3点を北海道に寄贈すること。

（用紙寸法 日本工業規格A4）

別記第6号様式（第11条関係）

年 月 日

北海道知事様

申請者 機関名
所在地
代表者名 ㊟

資料貸出承認申請書

次のとおり北海道開拓記念館資料の貸出しを受けたいので、北海道立開拓記念館条例第17条第1項の規定により、申請します。

利用目的	
利用場所	
貸出期間	年 月 日から 年 月 日まで
資料品目及び数量	

（用紙寸法 日本工業規格A4）

別記第7号様式（第11条関係）

年 月 日

申請者様

北海道知事 閣下

資料貸出承認書

年 月 日申請の北海道開拓記念館資料の貸出しについて、次のとおり承認します。

利用目的	
利用場所	
貸出期間	年 月 日から 年 月 日まで
資料品目及び数量	

注意 貸出しを受けた資料を上記目的以外の目的に供し、又は上記場所以外の場所で利用してはならないこと。

（用紙寸法 日本工業規格A4）

利用案内 Information

1 見学案内

〔開館時間〕

- ・午前9時30分～午後4時30分(ただし、入館は午後4時まで)

〔休館日〕

- ・毎週月曜日、年末年始(12月29日～31日及び1月1日～3日)、国民の祝日(4月29日、5月3日、5月4日、5月5日、9月の第3月曜日、9月23日、10月の第2月曜日、11月3日を除く)、国民の祝日が月曜日の場合、次の日は振替休館、その他(展示場清掃および保守点検)

〔観覧料〕

- ・常設展示

区 分	高校生・大学生	一 般
個 人	170円	500円
10名以上の団体料金	130円	400円

(平成20年4月1日改正)

学齢に達しない者、小・中学生、障がい者、65歳以上の方は無料です。

また、高校生でも土曜日及び5月5日(こどもの日)、11月3日(文化の日)に利用する場合並びに学校教育又は社会教育を目的として利用する10名以上の団体の場合は無料になります。

- ・特別展示

別途定める料金を徴収します。常設展示との組合せ料金もあります。

〔観覧料の免除〕

- (1) 次に掲げる事項に該当する人は、それに該当するものであることを証明するものを提示すれば観覧料が免除されます。

- ・小学校の児童又は中学校若しくは中等教育学校の前期課程の生徒の引率者である教職員
- ・特別支援学校の児童及び生徒並びにこれらの引率者
- ・児童福祉法による児童福祉施設に入所し、又は通園している少年及びその引率者
- ・身体障害者福祉法による身体障害者手帳の交付を受けている人及びその引率者
- ・生活保護法による生活保護を受けている人
- ・児童相談所、知的障害者更生相談所、精神保健福祉センター若しくは障害者職業センターの長又は精神保健指定医により知的障害者と判定された人及びその引率者
- ・精神保健福祉センターの長、精神保健指定医又は精神科を標ぼうする医師により精神障害者(知的障害者を除く)と判定された人及びその引率者
- ・老人福祉法による老人福祉施設に入所している人及びその引率者
- ・65歳以上の人
- ・その他上記に準ずる人

- (2) (1)以外の人で、知事が特別の理由があると認めた場合は、観覧料が免除されますので、特別の理由のある人は、あらかじめ所定の「使用料免除申請書」を当館へ提出していただきます。

〔見学者の注意事項〕

館内では係員の指示に従い、次のような秩序を乱す行為は禁じられています。

- ・大声を出すこと
- ・走りまわること
- ・飲酒し、他人に迷惑を及ぼすこと
- ・建物や資料を汚染又は損傷すること

〔見学コースおよび所要時間〕

来館者の都合に合わせて、いくつかの観覧コースを選ぶことができますが、順路に従って全館または主な展示室を見学する場合は次の例が参考になります。



〔多様な教育・学習機会の提供〕

記念館では、展示を公開することのほかにも、来館者の要望に応じた様々な教育・学習機会を提供しています。

- ・展示場・体験学習室では解説・説明・実技指導などを行なっています。
 - ・学芸職員が講師となって「北海道の開拓の歴史」をはじめ、様々なテーマ・内容で講義を行ないます(サービス講座)。多くの学芸員が地学・考古・民族・生活・産業など、様々な分野で研究をしていますので、学校団体・グループ等の研修等にご利用下さい。また、要望によっては館外にも講座講師として職員を派遣することもできます。
 - ・講演会・講習会・観察会など様々な普及行事が年間を通じて計画されています。事業内容の問い合わせ、参加申込は、普及事業課までご連絡下さい。
- あるいは当館ホームページ【<http://www.hmh.pref.hokkaido.jp>】をご利用願います。

2 収蔵資料の利用

(1) 資料の特別観覧

資料の閲覧、模写、模造、撮影又は複写を行いたい場合は、特別観覧承認申請書を提出して下さい。

特別観覧の時間は午前10時から午後4時までです。

(2) 模写品等の利用

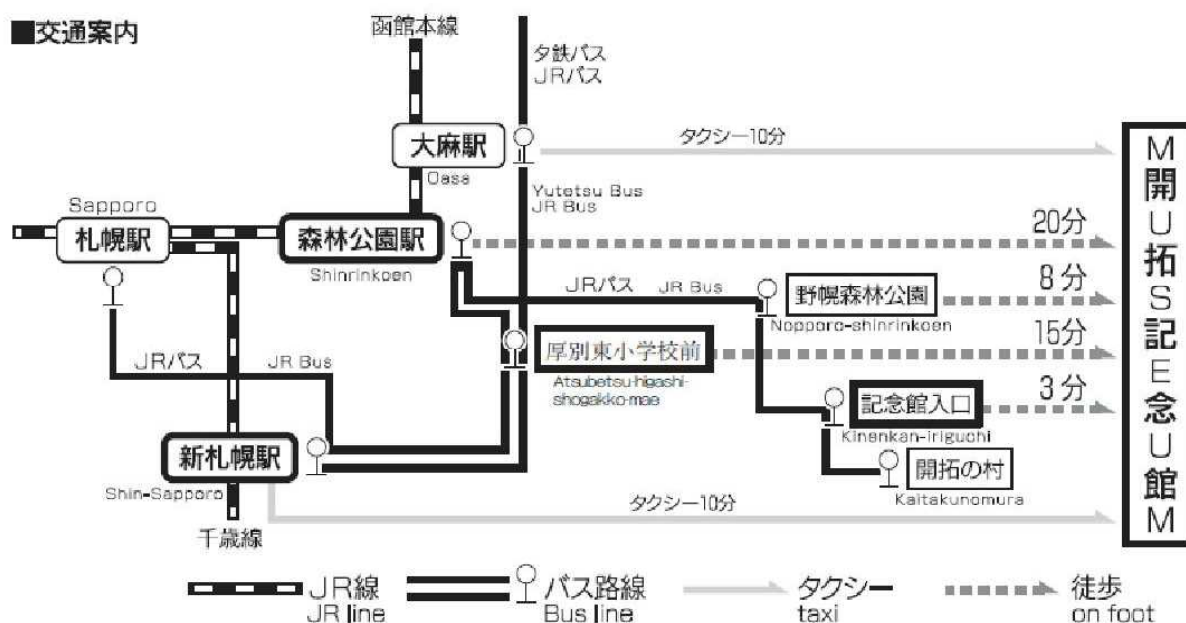
資料を模写・模造・撮影し、又は複写したもの(模写品等と総称)を刊行し、若しくは複製し、又は研究発表等に使用する場合は、模写品等刊行等承認申請書を出して下さい。

(3) 資料の貸出

資料の貸出を受ける場合は、資料貸出承認申請書を提出して下さい。

貸出期間は30日間以内ですが、知事が特に必要と認めたときは、延長することができます。

資料貸出を受けることができる人:博物館法に規定する博物館及び博物館相当施設の長、社会教育法に規定する公民館の長、国立の図書館及び図書館法に規定する図書館の長、学校教育法に規定する学校の長、その他知事が適当と認める場合。



次のいずれかが便利です。

- ・新札幌駅より JR バス開拓の村行きで記念館入口下車
- ・新札幌駅より JR バス (またはタ鉄バス) で厚別東小学校前 (野幌森林公園入口) 下車
- ・森林公園駅より徒歩

北海道開拓記念館要覧 2014

発行日 平成27年3月31日

編集・発行 北海道開拓記念館

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2

TEL (011) 898-0456

FAX (011) 898-2657